

第九条の会ヒロシマ

市民力 結集

憲法を活かし、民主主義、立憲主義の確立へ

4つの集會に、どうぞご参加くださ〜い!

被爆地ヒロシマから「集団的自衛権」行使反対の声を上げよう

① 戦争をする国にはならない! ヒロシマ集會

10月4日(土) 14:00~16:00

広島文化学園 HBG ホール (旧厚生年金会館)

講師: 大江健三郎さん (作家、九条の会)

主催: 戦争をさせないヒロシマ 1000人委員会

連絡先: 082-503-5856 (平和運動センター)

② STOP! 川内原発再稼働 反「原子力の日」広島集會

一島根・伊方原発は廃炉に、上関原発は建設するな〜

10月26日(日)

集會 13:30~16:00 青少年センターホール

「再稼働を止めて、原子力の終焉へ」

講師: 藤田祐幸さん (元慶応大教授物理学者)

集会后、デモ 16:30~ 約1時間

主催: 10・26 広島集會実行委員会 (仮)

連絡先 (仮): 082-927-6062 (溝田)



③ 憲法のつどい

11月3日(月・祝) 14:00~16:00

青少年センターホール

講演 & 講演後、デモ (予定)

共催: 広島県9条の会ネットワーク

秘密保護法廃止ネットワーク

連絡先: 082-222-0072 (石口俊一法律事務所)

④ 戦争につながる秘密保護法廃止

施行を許さない集會と大行進 (仮)

12月6日(土) 午後 時間、場所未定

主催: 広島弁護士会

チラシを送り
ますので
ご連絡
ください。

岩国米軍基地に7月、KC130 空中給油機 15機が普天間から移転してきた。沖縄周辺での訓練は続き負担軽減にはならない。集団的自衛権行使容認が米軍基地の中に空自が同居し、日米共同軍事行動の訓練が実践になりかねない。「空飛ぶガソリンスタンド」KC130 は攻撃性も備え、平和都市ヒロシマの西隣に中国や北朝鮮をにらむ基地が強化する。

呉海自基地から掃海母艦「ぶんご」が辺野古沖へ新基地建設反対運動を抑え込む応援に出かけた。栈橋を延長しヘリ空母と言われる護衛艦「いせ」がより大きな「いずも」に変わる可能性は大で、広島東隣りも基地強化が進む。

集団的自衛権行使容認の閣議決定をした安倍政権は、米国の要求に応え、日米ガイドライン改定の前に、法的根拠をもたせる「戦争関連法」の制定、改定をするはずだった。しかし戦争はイヤという世論を恐れ、来年春の地方統一選以降になるという。反対の声を大にするチャンスとしたい。

積極的平和とは平和学では、当会岡本三夫名誉代表の友人ヨハン・ガルトゥングさんによると「戦争のない状態」は消極的平和、積極的平和は「戦争がないだけでなく、貧困、差別など社会的構造から発生する暴力がない状態」とされ、まさに日本国憲法、とりわけ前文そのものである。意味を捻じ曲げられた「積極的平和主義」では緊張を高めるばかりで中国、北朝鮮との関係改善は望めない。

川内原発再稼働を止めれば全原発廃炉は可能。不戦70年の歴史は市民の力。非核、非戦の声はマジョリティー。人々の思いを聞かず、沖縄で、ヒロシマ・ナガサキで、官僚の書いた焼き直しを読むだけの首相は退陣に追い込もう。

4つの行動に賛同してくださる皆さんが沢山集まって、より大きな輪ができることを心から願う。(藤井純子)

会報83号 もくじ

2~3	巻頭言 憲法遵守こそが国民を守る	横原由紀夫
4~5	領土問題はどうか記述されたか?	山川滋
6~7	電産中国のたたかい①	頼秀文
8~9	子どもたちの「記憶の継承①	吉川徹忍
10~11	購読者からのお便り 全5段(朝日、読売)	
12~	8・6新聞意見広告の報告	佐々木孝・藤井純子
~15	賛同してくださった皆さんからのメッセージ	
16	岩国、沖縄、京都京丹後 Xバンドレーダー	西浦紘子
17	命が捨てられる④	福崎裕夫
18	広島市の豪雨土砂災害を考える	二見伸吾
19	活動報告	
20	お知らせ、後記	

憲法遵守こそが国民を守る

—「戦争」への道ではなく「不戦」の道を進め—

横原由紀夫

■ 戦争の反省なき安倍首相

安倍政権の暴走は続いている。

米国に追従しながら自らの信念である、強い日本を取り戻す（戦前の日本：国家主権）と、戦後の「平和憲法体制」の転換実現に走っている。今、その牙を沖縄に向ける。

名護市辺野古への新基地建設や東高江村のヘリパッド建設など、沖縄県民の大多数が反対している事など無視して「民間警備会社、県警機動隊、海上保安庁」などを使って反対する市民を弾圧している。環境保護、県民の声など無視して強行する行為は、「沖縄人（琉球民族）の人権を無視する」行いである。ここまで差別される沖縄の実態は、日米両政府による植民地支配である。

安倍首相の本音は、8月15日の全国戦没者追悼式の式辞に表れた。

「歴史に謙虚に向き合い、その教訓を強く胸に刻みながら・・・」と述べながら、歴代首相が継承してきた『アジア諸国への加害に対する反省』はなく、『不戦の誓い』も表明しなかった。

米国の力を頼りに「中国包囲網」を構築し東アジアの盟主になろうとする狙いが潜んでいる。

そのためにも、かつてのアジア・太平洋戦争と植民地統治で犯した「戦争犯罪」など加害の都合の悪い歴史は、打ち消さねばならないのだ。

今年7月に、ジュネーブで開催された「国連自由権規約委員会」の対日審査で、日本政府に対して厳しい内容の「勧告」が出された（日本政府は今まで、法的拘束力はないと無視）。

「勧告」は、①国内人権機関を設置せよ、②ジェンダー平等が社会で実現されていない、③ヘイトスピーチと人種差別が禁止されていない、④「慰安婦」に対する社会的攻撃が続いている（被害者を侮辱あるいは事件を否定するすべての試みが放置されている事態を重くみている）、⑤「特定秘密保護法」に対する懸念。国際基準に則り問題点の改革を求める意見、⑥先住民族（アイヌ、琉球）の権利保障を求め、改善を求める意見、など19項目にわたる勧告が出されその実現を求めている（第6回日本定期報告に関する総括所見より）。



マイクを持ち訴える横原さん

“殺せ”と叫び差別をアピールする行為は、「排外主義、民族差別を煽る」行為で「表現の自由」ではない。日本政府は、表現の自由を盾にして放置していたが、強い指摘によって検討を始めた。だが、“自民党内では、「国会前デモなども規制すべき」と基本的人権の規制を狙っている。これが日本の政治の実態であり政治家のレベルである。

■ 危険な歴史修正主義と復古主義

「特定秘密保護法」「国家安全保障会議（大本営）」「河野談話、村山談話を否定する言動」「集团的自衛権行使容認閣議決定」などを基本とする政治に象徴される安倍政治は、「環境保護、資源保護、人権尊重」を無視するもので、経済成長と軍事強化に向かう。その向かう先は、「労働者保護法の規制緩和、企業減税、原発再稼働・輸出」と大企業優先である。

また、「原発維持を基本とするエネルギー政策」「核燃料サイクル政策と高速増殖炉“もんじゅ”継続」は、エネルギー問題ではなく「将来の核武装」への狙いが隠されている。

目的は、『中国封じ込め、戦争体制準備、抑止力強化』であり冷戦思考である。そして、戦後体制転換は『国民主権から国家主権への転換』であり、最終的には『憲法改定：自民党改憲草案』である。

集团的自衛権行使の閣議決定の大問題は、「政府の解釈で憲法条文の内容を都合よく変える」ことを可能としたことである（憲法の空洞化、立憲主義の崩壊）。

すべては「戦争」への準備、備えという、いつか歩んだ道である。

▼ 喜ぶ米国

集团的自衛権は「外国のために戦争する」ことである。他国の戦争に参加する道を選択すれば、『自衛隊の位置づけ、役割』も変更される。自衛隊が合憲とされてきたのは“日本が攻撃された際、自国を防衛する組織（専守防衛）”という位置づけであった。だが、集团的自衛権は、日本が攻撃されていなくても武力行使するのであるから『先制攻撃』組織へと変わる。

自衛隊が『専守防衛』から『先制攻撃』任務を持つことは、憲法9条の「戦争放棄」と「交戦権を認めない、軍隊を持たない」規定に違反する。合憲としてきた基盤は失われる。本来なら憲法改定をしなければならない（米艦が日本人を輸送するなどはあり得ない例まで使って）。

米国は、相次ぐ戦争で国家財政は危機的状況であり、国内は「厭戦感情」が強い。国防費削減によって米軍の任務を縮小せざるを得なくなっている。それを“日本が肩代わり”してくれるのだから、有り難い。米国の要求によって拡大していくことは必至である。

■ 武力による抑止力では国民を守れない

抑止力とは、敵対する相手を上回る武力を持つことである。

武力増強→戦争を抑止→結果として平和 という図式であるから、常に相手を上回る武力を必要とする。一緒に戦ってくれる同盟国を求め（米国が日本と一緒に戦ってくれるのか？）。

抑止力に頼ることは（冷戦時の思考）、必然的に「軍備拡大競争」が起きる。軍拡競争の行き着くところは、『核武装（核弾頭とミサイル）』である。軍拡競争に巻き込まれた国は、例外なく、膨大な軍事費で国家財政の危機を迎える。限られた財政と資源を軍事に使うから、国民生活は低下し経済も偏った社会となる（既に証明されている）。軍事的緊張が高まり、武力衝突など紛争が生じる恐れが高まり、恐怖感が国民生活を圧迫する。軍拡競争ほど無意味な競争はなく、国民を守る道には程遠い。喜ぶのは“戦争で儲ける”一部の人々である。

▼ 安倍首相の嘘と誤魔化し

集団的自衛権行使の理由として、『安全保障環境が一層厳しさを増し、大量破壊兵器や弾道ミサイルの脅威が深刻度をましている（中国・北朝鮮脅威論）』と『どの国も一国のみで自国の平和と安全を守ることは出来ない』と強調する。そのために、「集団的自衛権行使、日米軍事同盟強化、抑止力強化」を必要とする。

中国・北朝鮮の軍事強化は、米国を対象としたものである（米国に対する抑止力強化）。米国の「社会主義圏包囲」戦略と最近の「アジア重要戦略」による中国封じ込めである。

中国の進出、膨張主義を押さえながら、一方、中国市場で儲けようと考えている。

安倍首相は、米国の威を借りて、中国封じ込め外交を（あらゆる方法を使って）展開している。それ以前に、中国・韓国を挑発し刺激して緊張関係を高めてきた（相手の嫌がることを一方的に行う敵視政策）『靖国参拝、加害行為の消し去り、「慰安婦」問題の消去、中国・韓国との間に領土問題はない：強硬な固有の領土論の自己主張』などである。敵視されれば、相手も武力強化に走るのは当然である。外交の基本を変えれば解決する道がある。

「一国のみで平和は守れない」と言うが、日本は戦後から一貫して“一国のみで平和を守って”きたのではない。日本が平和だったのは（本格的に戦争に巻き込まれなかった）、「米国からの戦争協力要請」を憲法9条を盾に「海外派兵は出来ない」と歴代政府が断ってきたからである。『平和憲法の国際化、憲法を原則とする平和外交、国連憲章の基本原則尊重』遵守の姿勢を国際社会が認めてきたからである。

▼ 現在は、大国であっても戦争出来ない

第1次世界大戦・第2次大戦、冷戦時代と大きく異なるのは、「国際社会の相互依存関係」が進み、大国であっても一国が勝手に振舞う事は出来ない。「環境保全も・資源も・経済も・文化も・人

権も」国際連帯と協力関係を前提にしなければ守れない、ということである。

「戦争は勝敗を越えて当事者に大きな打撃を与える」「大国の価値観押し付けでは戦争に勝利できないし泥沼にはまる」という教訓を得たからである。

「国家間の戦争」は起きない、起こせないというのが、国際社会の現実である。現在の問題は、国家内部や域内における「民族・人種間、宗教的主張、権力の腐敗・偏見」などによる紛争・テロ行為による武力行使である（米国の介入、二重基準の適用などの問題はあがる）。

安倍首相の近隣国敵視政策は冷戦時代の遺物である（中国が日本を攻めることは出来ない）。

■ 国民を守る道は「憲法遵守」

安倍政治は、軍事面で突出している。「オスプレイ、無人機、新型戦闘爆撃機の購入」、「陸海自衛隊に海兵隊を組織」、「宇宙空間の軍事利用」、「武器の共同開発、輸出」、「外交の軍事活用：ODA活用で軍事支援」、「有事、進む民間活用（新聞見出し）」などである。近い将来、「空母、原潜、核武装」が出てくるだろう。

国民を守る道は、憲法遵守の不戦しかない。“主義・主張、民族・人種、文化、宗教”などの違いを認め合い、対話で解決する国際協力関係構築に力を発揮することである。

東北アジア諸国（中国、韓国・北朝鮮、ロシア、モンゴル）と「平和共存・共栄関係」を築くことに全力を挙げることである。「経済協力」「資源の共同開発・利用・管理」「環境保全と環境問題解決」「文化と人的交流の拡大」などで協力関係を作り相互理解を深める。

だが、そのためには、安倍首相の政策と言動の反省が必要である。

『歴史問題の清算』『戦争加害責任問題の清算』『領土問題の棚上げ：共同利用・開発協力』など立場を明確にして対話すれば、相手と対等に渡り合え、解決の方向が見出せる。

沖縄の軍事基地は、まず、普天間基地を米国にお返しすることに力を入れる（返還することは可能）。

今後、行われる選挙は、立憲主義と民主主義を取り戻し、戦争への道を拒否するために重要である。大企業優遇に偏重した政治を変えることが大切である。国民に大きな負担をかける原発路線から撤退する道へ変えることも大切である。

市民が声を上げ行動することで、政治を動かそう。

“軍備増強で民は貧しく国滅ぶ道”を歩まぬために。

（第九条の会ヒロシマ世話人）

註：字数の制約で説明を省略した。東北アジア情報センター会報 32号（9月1日号）の拙論も参考にして頂ければ幸いです。

（2014年8月30日記 第九条の会世話人）

小学校5年生の社会科教科書 領土問題はどうか記述されたか？

山川 滋 (教科書問題を考える市民ネットワーク・ひろしま)

1 教科書で政府の「見解」を刷り込むべきではない！

文部科学省は本年1月に以下のように中学校・高等学校教科書の検定基準を改定（新検定基準）しました。

- ① 近現代史で通説がない事項はそれを明示し、児童生徒が誤解の恐れがある表現はしない。
- ② 政府見解や確定判例がある事項はそれに基づく記述をする。
- ③ 未確定の時事事項は特定の事柄を強調しすぎないことなど。

改定のねらいは、『領土』『南京虐殺』『慰安婦』『強制連行』『沖縄戦』『日の丸・君が代』等の歴史問題を、政府の見解や最高裁判所判決に即して書かせることで、日本の侵略・加害に関する記述を削除・減少・矮小化することです。更に『領土』について文科省は中学校・高校の学習指導要領解説書（解説書）を次のように改定しました。

	地理	歴史	公民
竹島	我が国固有の領土だが、韓国に不法に占拠されているため累次にわたり抗議していることなどを的確に扱い、理解を深めさせることも必要	我が国が国際法上、正当な根拠に基づき、正式に領	未解決の問題が残されていることや我が国が正当に主張している立場を理解させる
尖閣諸島	我が国固有の領土で有効に支配し、領有権の問題は存在していないことを理解させることが必要	土に編入した経緯にも触れる	解決すべき領有権の問題が存在していないことを理解させる

2 小学校5年生の社会科『領土』の記述はどう変わったのか？

新検定基準・解説書に束縛されないはずの小学校教科書採択本も新検定基準・解説書を取った内容に既に変わっています。特に東京書籍は、6年生の社会科採択本について他社に「領土問題」の記述があるのに自社にはないために、5月に異例な「訂正申請」をしてまで他社と記述を揃えました。以下の表は5年生『領土』についての各社の記述変化を、現行本と採択本とで比較したものです。

※下線は政府見解に沿った教科書会社独自の特徴的記述

【東京書籍】		現行本	採択本
領土		国際法に則った客観的な記述がされています。	<u>「<u>自国以外の船や飛行機は、許可なくその国の領土や領海領空に入ってはいけないことになっています。</u>」</u>
北方領土		外務省HPに沿い『返還を待つ北方領土』と題して「北方領土（写真）」「…ロシア連邦が不法に占拠しています」「…日本政府は交渉を続けています」「…北方領土が1日でも早く日本にもどることがわたしたち日本人の願いです」	現行本と同じ
竹島		地図記載	「…竹島は、日本固有の領土ですが、韓国が不法に占拠しています。」写真・地図掲載
尖閣諸島		記載なし	「…尖閣諸島は、日本固有の領土ですが、中国がその領有を主張しています。」写真・地図掲載

【教育出版】		現行本	採択本
領土		説明なし	<u>海上保安庁の活動写真入りのコラムを掲載して「領土」と「防衛」を強く関連づけた上で、海底資源や漁業の安全確保と領土問題も関連づけて、武力での解決に導くかのような記述</u>
北方領土		説明なし 「択捉島（日本の北のはし）」が地図中に掲載	「（領土問題を）解決することはわが国にとって重要な課題です」と「領土問題」を印象づけ、「…竹島は、日本の領土でありながら、1954年（昭和29年）から韓国が不法な占拠を続けています。日本はこれに抗議をすると共に、国際的な場で話し合いによって平和的に解決しようと、韓国に対する働きかけを強めています。」「尖閣諸島も日本の領土でありながら中国が自国の領土であると主張しています。その周

		りの日本の海では中国の船が侵入し、日本の同意を得ることなく海洋調査を行ったり、違法に漁業を行ったりすることなどの行為を繰り返しています。日本は海上保安庁などによる警戒や取り締まりを強め、そうした行為をしないよう中国に求めています。」
竹島	地図掲載	写真・地図掲載
尖閣諸島	地図掲載	写真・地図掲載

【光村図書出版】 現行本		採択本
領土	説明なし	説明なし
北方領土	側注で説明	「…北方領土はもともと日本の領土ですが…ソビエト連邦（今のロシア連邦）が占領し、今も不法に支配しています。」写真・地図掲載
竹島	地図掲載	「…竹島（島根県）は日本固有の領土です。しかし、韓国が不法に占拠しており、日本政府が強く抗議しています。」地図掲載
尖閣諸島	記載なし	「…尖閣諸島（沖縄県）は日本の領土ですが、中国がその領有を主張しています。」地図掲載

【日本文教出版】 現行本		採択本
領土	政府見解に沿った記述(コラム)	政府見解に沿った記述(コラム)
北方領土	「択捉島(写真)」「歯舞群島(写真)」「北方領土(地図)」が記載	「…ロシア連邦が不法に占拠しています。…日本政府は…話し合いを続けています。日本の人々は…1日も早く帰ってくることを願っています。」地図・写真掲載
竹島	記載なし	「…竹島は日本固有の領土ですが、現在韓国が不法に占拠しています。」写真・地図掲載
尖閣諸島	記載なし	「…尖閣諸島は、日本固有の領土ですが、中国も自国の領土であると主張しています。」写真・地図掲載

5年生社会科採択本の記述整理表

項目 出版社	領土	北方領土			竹島			尖閣諸島			「○」現行本からの継続記載 「×」記載なし 「新」新検定基準・解説書反映 記述
		不法占拠	写真	地図	不法占拠	写真	地図	中国領有権主張	写真	地図	
東京書籍	新・政府見解	○	○	○	新	新	○	新	新	新	「×」記載なし 「新」新検定基準・解説書反映 記述
教育出版	新・政府見解	新	新	○	新	新	○	新	新	○	
光村図書出版	×	○	新	○	新	×	○	新	×	新	
日本文教出版	新・政府見解	○	○	○	新	新	新	新	新	新	

3 国策宣伝教科書に対してどう考えどう対応するのか

国策「原発安全神話」で明らかになったように、私たち市民は政府の「嘘」を見抜く必要があることを学んだはずですが。だから学校教育で「様々な事実・ものの見方・意見を提示し、生徒に多面的に考えさせ、授業を組み立てていく」学習を一層進める必要があるのです。しかし、現在また政府が「領土の不法占拠」を教科書に強制的に書かせ、教え込むことで子どもたちの多面的な思考を奪い、中国や韓国は「悪い国」という一方的な反感を育てることは必至です。戦前のように反日・非国民という人権抑圧社会を学校教育が作っていく危険が大きくなってきているという認識を持ち、学校ではできる限り多面的な内容で考えさせる授業を作る努力をすることが必要です。また私たち市民は日本・中国・韓国の主張の根拠や歴史的事実について政府の宣伝に惑わされない認識を持ち、武力ではなく平和的な解決をめざす世論を、様々な平和人権団体と連携を深めながら広げていく必要があります。

《反原発の歴史に学ぶ》 電産中国の闘い

頼 秀文（元電産中国書記長）

■ 電産との出会い

電産中国（日本電力産業労働組合中国地方本部）が、電力労働運動として反原発に至る軌跡をたどってみたいと思います。

私が中国電力に入社したのは1972年4月です。この時は会社の中に2つの労働組合（電産中国、中国電労）が存在していることを知りませんでした。それはどんな組合だったのか、後でやや詳しく述べることにします。入社して暫くして、独身寮で相部屋となった先輩が電産の組合員であったこと等がキッカケとなり、1977年の春闘の時期に電産に加入すると同時に春闘青年行動隊として岡山県内の事業場をオルグして回ったのが、電産組合員としてのデビューとなりました。そして、その翌年の1978年1月から電産本部の専門委員という立場で本部専従となりました。

この1978年という年は、山口県において豊北（ほうほく）原発反対闘争が盛り上がっていた頃で、電産山口県支部を中心に反原発の方針を打ち出すとともに、「中国電力の社員も原発に反対しています」と訴える反原発ビラ『原発だより』を配布する行動が取り組まれました。このビラ配布行動をした電産組合員7名に対して、中国電力が休職2ヵ月や減給の懲戒処分攻撃をかけてくるという「反原発ビラ配布事件」が起きるなど、とくに会社と緊張関係にあった時期でもあります。

また、この年は、『はんげんぱつ新聞』を発行する体制を確立するため、各地の住民代表や労組、諸団体の代表が結集し、4月9日に「反原発運動全国連絡会」の結成総会が開催されています。活発な討論を交わしながら、連絡会の運営方法、新聞の発行や支局の体制などについて確認を行ない、電産も正式に支局として加入しました。新聞の購買拡大運動を始めよう、と当時の『電産中国』の機関紙で紹介されています。

結成総会には、電産本部から榎谷運書記長が参加しており、島根原発2号炉の建設をめぐる現地状況、および豊北原発建設反対運動の現地闘争状況を報告するとともに電産の反原発闘争に対する中国電力の不当弾圧、「不当処分」等の攻撃がかけられている実態を報告し、参加者へ「電産に対する支援と中国電力に対しての抗議行動を要請した」と記事は伝えています。

さて、この電産の反原発の闘いというのは、ある日突然に始まったというのではなく、そこにはやはり必然的に関わりを持たざるをえなかった経過があります。この経過を説明しようとするれば、まず電力労働運動の歴史に少し触れなければなりません。

■ 輝ける電産

私が電産に加入した1978年の組織実態は、第二組合である中国電労の約9600名に対し、電産は約800名しかいませんでした。しかし、電産は非常に古い組合です。

電力労働者の先輩も敗戦後の焦土と混乱の中からいち早く立ち上がり、1945年12月、関西配電労働組合が先陣をきって結成、

次いで同年12月に関東配電労働組合、翌1946年1月に日本発送電従業員組合が結成、そして各配電会社にも次々と労働組合が結成されていきました。

中国地方においても、こうした動きに刺激され、当初は職場単位で労働組合が次々と結成され、日本発送電では、全国単一組織の下部機関として支店・火力発電所・電力所単位に支部をつくり、これをもって中国地方本部が結成されました。そして、当時の超インフレ下における生活防衛の闘いを直ちに開始、統一闘争の必要性から、1946年4月、共闘組織として日本電気産業労働組合協議会いわゆる「電産協」を結成、会社側も10社からなる経営者会議をつくっています。

電産協は、直ちに強力な権限（交渉権・スト指令権）をもつ共同闘争委員会をつくり、1946年10月19日、電力労働運動史上初の停電スト（5分間）が全国的に実施されています。この状況を当時の中闘情報は、『①5分間停電の状況は詳しくは分からないが極めて良好である。②東京では宮城をはじめとして、次々と電燈が消えるのがキリン※の屋上から眺められた。③各地の状況を文書で知らせ』と生き生きと伝えており、情報からも興奮気味な様子が伺われます。この「十月闘争」で電産が獲得した要求項目とは、①電気事業の民主化、②生活費を基準とする最低賃金制の確立、③退職金の改訂（退職後10年間生活保障）などの三項目でありました。とくに②の賃金については、電産は要求をほぼ完全に獲得しており、それは「電産型賃金」呼ばれて、以後長きに亘って、日本の労働組合の賃金闘争のモデルとなっています。このように当時電産は、全日本における労組としては、一糸乱れぬ団結で、意志と行動が完全なものとなり特筆すべき成果をあげています。通信設備が整わない時代であったが、スト指令は全国に張り巡らされた配電の有線電話をほとんど専用することとなり、即座に末端まで到達させることが出来たことです。その指令内容を官憲に盗聴されることを鑑み、全て暗号（※キリンは「電産本部」、サクラ・ツバメは「スト突入」の意というように）で指令する方式をとっています。

この第一次争議の勝利によって、電産協に対する求心力は強まり、共同闘争委員会が事実上、産別機能を発揮したことから、統一組織への移行はスムーズに行われ、1947年5月、産別組織として電産が発足したのであります。それ以来10年間、単一の強大な産別組合へ成長した電産は「輝ける電産」と賞賛され、賃金闘争、労協闘争あるいは電力事業社会化の闘いなど強力なストライキを武器に、優れた数多くの労働条件を勝ち取るなど戦後労働運動に大きな影響を与えたのであります。

一方、1951年9月の単独講和条約の調印によって、一応の独立を達成した政府・資本家陣営は、労働組合勢力の徹底的弱体化によって、日本経済の自立化を図ろうとしていました。その際、電産が矢面に立たされ、集中攻撃を受けることとなったのであります。電産の壊滅策のために、政府・資本家陣営がとった作戦は、「電気事業の再編成」でありました。

電産が豊北町一帯に配布した「原発だよりNo.1」

中国電力の社員も原発に反対しています。

原発だより

No.1
山口市中央2丁目
中国電力山口支店内
日本電力産業労働組合
(通称、電産)
山口県支部
TEL
06392-2-0690
(内線298・308)

豊北町のみさんごんには、
水い冬も残り、つくしやわらびがあらから頭をもたげ、わかめ、きい、あびをばはじめ、いか漁も活気づいて来ました。
豊かな漁場と美しい自然に恵まれた豊北町に愛する郷土豊北町に中国電力は西日本最大級の原子力発電所を作ろうとしています。そして私達中電の社員に「原発建設に一人残らず協力するように」指示しています。
しかし、私達中国電力で働く労働者(社員)は、原発を作ることに断乎反対しています。

この車に御注意を!

トヨタカローラ 白	山56+ 37-52
	山56+ 37-53
	山56+ 37-54

原子力準備本部の車です。

山側の方が放射能が多く降る

原発は煙が出ないので煙突はいらなはずですが、どこの原発にも赤と白に塗った煙突(排気筒)があります。これは、発電所の中の放射能で汚染された空気を大気中に吐き出すためのもので、その放射能がみなさんの頭の上に降ってきます。

豊北町は海から吹く風が強いにも、もし神田峠に原発が作られると、その放射能は、阿川、栗野、滝部、田峠など山側の方に多く降りそそぐこととなります。

計画どおり原発が動いても石油の3%にしかならない

今年中に五つの原発が完成し、計19の原発で1000万キロワットを超えて世界第2の原発保有国になりますが、更に、7年後までにはこれを2600万キロワットにすると政府は言っています。仮に計画どおり運転が開始されても、石油全体の3.3%が節約できるだけの事です。

つまり、石油全体の中で発電用に使われるのは22%です。あとは飛行機、船舶、自動車、石油化学製品などに使われます。

又、先の2600万キロワットが原子力発電になっても、それは発電全体の15%で、これを石油全体で見ると22%×15%=3.3%にしかならないのです。

島根原発の社員は地元の魚は食べません

中電は島根県鹿島町に原発を作っており、そこで働く社員の大部分は約四キロ離れた住宅に住んでいます。その住宅に地元で取れた魚を売りに行っても、ほとんどの人は買わずに、松江のスーパーなどで冷凍魚を買っています。その奥さん達は「一日も早く他の職場に転勤させてほしい」「通勤に時間がかかっても、もっと発電所から離れた所に住みたい」「他に転勤所から離れた子供は生まない様にしよう」と、毎日主人と話しているそうです。

原発が危険であることは、原発で働く労働者が一番よく知っているのです。

石油は三十年で無くなるのか

中電は、「このま、行けば、あと三十年で石油は無くなる」と言っています。今から四十年前、戦時中には二十年で無くなると言っていました。二十年前も、十年前も、やはり三十年で無くなると言っていました。この三十年説には何の根拠も無いのです。

毎年使っている新しい油田が発見されており、「無駄使いしなければ無くなる心配は無い」というのが科学者の一致した見解です。又、右派は千年とも二千年とも言われています。

豊北町民と労働者を守るため

漁民の方々は「中電を切らなさい」「電力を切らなさい」と力してはたしに私か、反対している何百人、何千人という時、時には豊北町でしよう。ですから中電北町民の生命と生活を守る者から、私達を守るために闘い続けよう。

電力は本当に足りないのか

中国電力は三年後に夏のピーク時に少し不足する、と言っています。政府が呼びかけて各企業が交代で夏休みを行えば電力を一度に使用しなくて済むし、最も太陽熱の利用できる時期だから、原発と同じ位の費用をかければ、安全な太陽熱発電が可能となります。

太陽熱ではウランや石油が光れなくなってしまうから、本気でやらないのです。

大事故が起れば豊北町は全滅

もし原子炉から出ているパイプが折れて水が漏れてしまうと、核燃料の熱で原子炉が熔け、建物まで溶かして地下水が一気に蒸気爆



■ スト権の剥奪と組織分裂

1950~51年、朝鮮事変前後におこった電力再編成の動きによって日本発送電株式会社(日発)が解体されました。日発というのは全国的組織で、これが単一電産を支える大きな力、つなぎの役割をもっていました。それが解体によって9つの地域に分割され、それぞれの配電会社にはいり、無力化していきました。

9電力会社が各々地域独占体制を敷くことによって、企業毎の労働条件に格差を生じさせようとしたのであります。企業毎に労働条件の格差が生じれば、当然、企業毎に従業員の利害意識が強まることとなり、それは企業別の第二組合が発生する基盤となっていきました。

1952年秋の大闘争では、反撃体制を整えた政府と独占資本は牙をむいて電産に攻撃を仕掛けてきました。それは既得権を剥奪し労働条件を切り下げるという露骨な攻撃となって襲いかかってきました。そして企業間の格差は当然という立場から、各企業別の「個別交渉・個別賃金」で電産の「統一賃金・統一交渉」に対決、組織破壊に直接乗り出してきました。そして電力資本の手によって、各地方において企業別に第二組合がつくられていきました。このような状況の中で、86日に及んだ大闘争は中央本部が中央労働委員会の斡旋案をのんで、敗北のうちに終わりました。

中国においては、1953年8月28日、本店の職制組合員約50名の発起人を中心に第二組合である中国電力労働組合(中電労)が結成され、その発起人の中には後に社長になる松谷健一郎なども名前を列ねており、このことからみても中電労の発足がいかなる性格のものであるかは明らかであります。

また、1953年7月には、いわゆる「スト規制法」が成立し、電源に関わる一切のスト行為が法律的に禁止されることとなり、組織分裂とスト権の剥奪という厳しい攻撃によって、電力労働者の闘いは大きな後退を余儀なくされることになったのであります。

その後、電産の各地方本部は、次々と第二組合の軍門に降り、吸収されていく中、1957年に電産九州地方本部が九州電労と統一したのを最後に、中国地方は電産の歴史を守る唯一の地方本部として存在することとなったのであります。

電産中国地方本部においても、分裂当初の方針はやはり「地方大統一」であったが、1958年59年の地方定時大会では、実質的に統一の方針が破棄され「闘える組織の確立の方針」が決定されています。以後、電産中国はこの方針に沿って、少数であっても電力労働者の根本的利益を守るという立場に立って、闘いを続けていくこととなりました。(次号84号「反原発運動へ」に続く)

戦争・被爆体験「記憶の継承」 - 1

—海老根勲さん（元中国新聞論説委員）と子どもたち—

吉川徹忍（元広島城北小・中・高校教諭）

はじめに—出会い

1977年から、広島高校生平和ゼミナールによる原爆瓦発掘運動が始まった。爆心直下の元安川河床で被爆し焼き砕かれた原爆瓦を発見したのがきっかけ。私立広島城北学園広島城北小学校に勤めて2年目の1981年から、私は平和学習の一環として児童と共にこの運動に合流した。4000度余りの熱線で火ぶくれ泡だった瓦を手にした児童は、「焼けたれたブツブツの中から『あついよう、熱いよう』と死んだ人たちの叫び声が聞こえてくるようでした」（小5）等と感想に記し、毎年の文化祭で平和学習展示・発表。原爆の惨状と死者たちの無念さに思いを馳せた。

児童たちの取り組みがきっかけとなり、被爆体験を孫や児童の前で話したこともなかった保護者と本校教師が申し出られ、児童集会等で語り始められた。ガスバーナーによる「原爆瓦」再現実験に驚いた全児童。校内に「原爆瓦ケース」が設置された。児童が発掘した原爆瓦・焼け溶けたガラス・当時の国民学校の陶器ポタンや、活動に共感された保護者たちからは被爆した遺物が次々と寄贈され展示された。

友人の公立小学校教師の協力を得て、市内各小学校の教師たちに手紙を発送し発掘運動への参加を呼びかけた。近隣の公立小学校児童会が本校の児童会を訪れ発掘体験を学びに来た。多くの市内の小学生が高校生と一緒に元安川で泥まみれになり、多い時には1日で1000名余りの参加者で河床はあふれた。1982年8月5日、全国の子供たちから寄せられた約3500万円の募金により原爆瓦のモニュメント「原爆犠牲ヒロシマの碑」が元安川ほとりに建立された。

1982年9月、中国新聞文化部記者の海老根勲さんが文化欄「洗心」に特集『原爆瓦大きな反響』として、児童たちの原爆瓦発掘活動と感想を掲載されたのが、海老根さんと本校の児童たちとの初めての出会いとなった。広島の子どもたちによって発掘され贈られた原爆瓦の碑が、遙かオホーツク海に面する小学校に建立された。関心を抱かれた海老根さんは、猿払村立浅茅野小学校を訪れフリーに取材し、原爆瓦を活用しての平和学習内容を調査され「広島教育」（1985年9月広教組）に「原爆瓦の碑」という標題で、寄稿してもらった。

社会問題研究部設立—視点を地域へ

1992年、私は小学校から中・高校勤務となった。平和・人権について学びたいという生徒たちと1993年、中・高校社会問題研究部（当初同好会）を設立。さいはてに見た原爆瓦を発掘しながら生徒たちとの話から、家族にも戦争・被爆体験を黙しておられるお年寄りの多いことが話題になった。核軍拡脅威の一方、体験風化の現実。「記憶の継承」に関わって、証言を語れる人たちも受け継ぐ子どもたちも「最後の世代」である。

1995年10月、地域に根ざし、戦争・被爆体験の聞き取り調査をすることを決めた。予想もできない出会いに遭遇することを

想定し、お年寄りの多様な考え方や一人ひとりの個性を尊重する中で悲しみ・苦しみを正面から受けとめようと確認し、活動の視点を定めた。

①「地域に根ざす」とは、戦争・平和の課題を抽象的にではなく、学校の足場＝戸坂地域の人々の暮らしの中から学び、自らのこととして理解する。地域の生活体験を通して、歴史学習と結びつける。

②戸坂地域の学校に通いながらも、語り合うこともないお年寄りの方々との交流を深め、年齢を超えた心の絆を育て、広島城北中・高校生としての責任と自覚を高め、最も身近な生活の中での「共生」のあり方を学ぶ。

③戦争・被爆体験の証言者と膝をつき合わせての対話から追体験する中で、新たな自己を発見し、自らの生き方につなげる。ヒロシマで戦争・核を許さず、日本国憲法・国連憲章などの平和主義原則を内実化していく。

④過去の戦争の「過ち」を直視し、被害・加害の歴史に学ぶ。その中で、ささやかながらも反戦・平和への願いや抵抗（連帯）の史実を掘り起こし、民族の和解を目指し平和と民主主義創造の確信を持ち、真の「共生」の道を探る。

爆心地から4～5kmの戸坂地域は、被爆当時「世帯数344世帯、人口1440人」、山林に囲まれた平地は、米・野菜の生産地として豊かな田園風景であった。聞き取り開始前後（1996年12月）は「世帯数9804世帯、人口24,920人」にふくれあがった住宅街であり、山の麓にまでマンション・団地が建て込んでいる。学校は牛田山（261m）を背後に地域を見下ろす高台にあり、私立学園のため地域との繋がりは薄く、思ったほど簡単には当時の体験者を探しだせなかった。婦人会や地元の寺院や檀家をついて探し始めた。躊躇され、何度も説得を試みて、やっと4人の女性（80代）の了解を得た。

1995年から2003年にかけて、戸坂地域を中心に毎年1～2回、合計8回余りの聞き取り調査を実施した。延べ14人のお年寄り、ご自宅や集会所・寺院での出会いと交流が生まれた。

戦争・被爆体験聞き取り調査—地域のお年寄りとの出会い

1995年10月、4人のお年寄りからグループ毎に輪になっての第1回目の聞き取りは地元の集会所。1945年8月6日当日、証言によるとこの地域では爆風・熱線と共に牛田山の背後にきのこ雲が立上った。天井が吹き飛び、障子・襖が破損、縁側にいた方の腕は火ぶくれになった。陸軍病院が戸坂国民学校にあり、道路や芸備線沿いから逃れてきた被爆者であふれた。被爆者からの名前・住所などの聞き取り、炊き出しなどの救援、遺体処理、被爆兵士を自宅で預かり介護するなどの対応に追われた。

被爆直後の国防婦人会による炊き出し救援活動の証言を聞いて。「『人の生き死になんて分からないものですよ』と戦争を生き抜いた方に言われると何とも奥が深く心を打たれました。考えて

みれば僕らが平田ナツ子さん（証言時 84 歳）に出会うのは偶然です。以前に出会ったとしても挨拶もしていなかったように思います。もっと積極的に人と接して欲しいという願いが感じられ、とても心に残りました」（高 1）。

戦時下の生活や、戦場・被爆時の想像を絶する惨状や必死な救助の様子に衝撃を受け胸を痛め、時に茫然自失となった。同時に、一語一語の中にお年寄りそれぞれの、時代をくぐり抜けられた人生が明かされ、人間として尊敬の思いを抱くようになった。地域に流れる歴史を実感し、登下校では気づかなかった戸坂への親しみも湧いたと生徒たち。この取り組みに注目されたのが、当時論説委員になられた海老根さんだった。

*海老根さんの記事

『原爆の被害を知ることができ、戸坂の人々と交流できたすばらしいものでした。どんな重い内容でもためになる学習は楽しいものなんだ、と思いました（高 1）』という一文が、この取り組みの果実を物語っている。被爆・終戦 50 周年を超えてなお語り継がれることは多くあることを証明し、併せて地域社会が教育に果たす役割も再認識させた、貴重な実践となった。この試みは幾つかの課題を浮き彫りにした。平和学習にとどまらない、地域住民との『出会い』の発見がまず挙げられる」（1996 年 2 月 14 日、社説「地域見つめる平和学習の試み」より抜粋。記事中の生徒の学年は筆者記入）

戦争・被爆体験聞き取り調査—家族・保護者への広がり

聞き取り調査をした生徒たちの家庭でも話題になった。戸坂在住の生徒の祖父母などから新たな戦争・被爆体験者が次々と名乗り出て語り始められた。

その 1 人藤井頼市さん（証言時 82・83 歳）。1996 年 11 月 4 日・1997 年 6 月 7 日の 2 度の聞き取り。一つは戦争の足音が強まる 1930 年代、赤紙召集で戸坂住民に見送られ中国大陸へ。「死にたくない、生きたい」という思いも封印し泥沼の戦場での悲惨な体験。戦地（内モンゴル）の警備隊長となり、前隊長が中国人捕虜を虐待していたのを止めたことで、戦後国民党政府・住民から感謝状を頂く。二つ目は原爆投下 1 ヶ月後復員。爆心地のがれきで見つけた 1m あまりのえぐられたアンズの木を戸坂の実家に移植、半世紀を経て 5m に成長し毎年果実をつけるまでに。「毎日、この木を見ては、よう生き抜いたのう」と感慨深く木を見上げる藤井さん。

軍隊体験を聞き「戦争に行きたくないという感情を持つのは、僕たちだって同じ。反骨精神を許さない『戦争』に、改めて憎さを覚えた」（高 2）。「人の命をもてあそぶことはしてはいけない」という藤井さんの人道的な考え方は、当時はなかなか受け入れられないはず。軍隊集団から責められ孤立するかも知れないのに、それでも捕虜擁護という信念を貫き通された。特定の思想や考えることも周囲に逆らえない時代というのは、現代のイジメや差別に似てなくもないように感じた」（高 1）。「僕はこのアンズの木の見跡を見たとき、焼け野原の広島で人が『痛い、痛い』と

苦しむ様子を思い浮かべた」（中 1）。

前年、戸坂で被爆者救援の体験を証言された神明イサミさん（証言時 80・81 歳）に 1996 年 11 月、再度の聞き取り。1940 年代戦時下、食糧統制の中、衣食は切符制の配給で大人も子どもも辛かった体験が語られた。「陸軍の演習で国のために働く兵士たちが上官に厳しくされ、見ていてかわいそうだった。今、拘束された世界から解放されて、自由になり、やっと自分が自分であるようだといわれた。本当に今回は、もう一度自分自身を見直すいい機会になった」（高 2 生）。「学んだことは、過去の戦争という過ちをもう二度と繰り返してはいけないということでした。まず出来ることは、ものごとをしっかりと見きわめ、自分の頭で考え、おかしいと思った事は、おかしいとはっきり言うことだと思った」（高 2）。「一つの情報・知識のみをよりどころに判断することは、とても危険だと思う」（高 1）。

生徒たちだけでなく、初めて聞くというご家族や保護者、PTA 役員方も耳を傾けられた。生徒たちは過去の戦争の真実を求めようとする意欲と共に、「表現の自由」を含めた民主主義の大切さに気づき、平和と命を見つめ直し、支えてくれている多くのつながりに気づいていった。ちなみに、藤井さんと神明さんは学校卒業以来初めての再会だったようで、お互いに驚き感無量に。集会所は温かい空気に包まれた。

*海老根さんの記事

「生徒たちの感動も深い。『生きる力』に圧倒される思いを語る生徒がいる。「幹に刻まれた深い傷、なぜこの木は死にかけたのか、この事実を忘れてしまつては意味がない」（高 2）。彼らは、この「取材活動」を一昨年の秋から始めたのだが、最近は学校を訪ねてくるお年寄りもいるという。戦時下の、被爆後の苦しみがさまざまに語られる。「大切なことは『歴史を学ぶこと』ではなく『歴史から教訓を学ぶこと』」（中 3）だと気付く。「近現代史の生きた教材が、そこには確かにあるはずだ。それに、地域の人の輪が再生される、という副産物もある。むしろ、その方が貴重だと、城北校の実践が教えている」（1997 年 8 月 5 日、コラム「天風録」より抜粋）。元原稿：中 3 公民 最後の「伝言」№8 より

次号 84 号に続く

丸屋博さんのお話を聞く生徒たちと海老根さん



8.6 朝日新聞の意見広告「こころも命も捧げるもんか」はわかりやすくアイディアに富み素晴らしい一面でした。(問題いろいろ網羅読ませる内容です)これがそのままチラシかポスター(カラーで)になって街角に貼られたらなあ...と思いました。マンガチックで子どもの目にも止まりやすいですね。とにかく草の根で解釈改憲を許さず九条をそのままラッピングしていかねばなりませんね! 私たちの気持ちを表現 ありがとう! 金崎佳子

前略 今年の七月に広島に移ってきました。日々の世の中の動きや政治状況をいろいろなメディアを通じて知るにつけて日本の憲法九条の持つ意味と価値がとて大切なものだとこのごろになってようやく痛感するようになりました。一人の人間の思いや考えは小さいけれど、大きなうねりによって強く世の中を動かしていきけるのではないかと思います。私もいろんな機会を通して少しずつ学習をしていこうと思います。「第九条の会ヒロシマ」で企画されている学習会や講演会などがありましたら、是非ご連絡いただければと思います。よろしくお願い致します。 横山 繁

8月6日、朝日新聞に意見広告しました。「よくぞ出てくれた」配だ「安倍政権はむちゃくちゃだれているなんて嬉しい」「元気をもらい」...と大雨の中でカラーコピーNO! パレード中も、中国電力本店からは手紙やFAXがきました。短分厚い資料も。世話人で読ませてよかったですこちらが元気を頂き、話はこの紙面には入らないほどで、訳ありませんが、読んでみてくださり感謝いたします。

昨日は突然お電話をさせて頂き、失礼しました。戦後70年をむかえようとしている今、これらもこの平和を次の世代にとの思いから、私に出来ることはとっていたところ、朝日新聞でそちらの会の活動を目にしまして匿名で誠に心苦しく存じますが、心ばかりの賛同を同封させて頂きました。憲法9条がずっと続きますことを願いつつ... (大阪の一主婦より)

貴会の意見広告の内容に賛同します。国民の声は無視してアメリカの言いなりになるばかりの政府には腹が立ちます。原発再稼働もどんな自然災害が起こり原発事故が起こるかもしれない状況では実施してはいけません。子どもや孫の時代に平和な国であることが一番の望みです。外交努力が足りないと思います。 梅木寿

広島の前爆慰霊式典を見て黙とうをささげました。「九条の会ヒロシマ」の広告を拝見して感動いたしました。式典で市長は「集団的自衛権」には触れませんでした。この広告が補ってくれました。しかし、総理は人の心を持っていない冷たい人の方です。何を言っても平気です。式典後、老齢の方が総理に対して訴えましたが、「見解の相違」と平然として立ち去る姿にがっかりしました。あとは裁判が選挙です。諦めずに声を挙げていきたいです。法を犯しているのですから。 向井武子 (宝塚九条の会)

こころも命も、戦争と福島第1原発事故を忘れずに、

国会議員は憲法を守らなや、おとなはなぜ、平和のために戦争するの? これじゃ、憲法ビース壊れちゃう

これじゃ、大事平和憲法がだいなし!

人殺しより人命助。自己犠牲より人命救助だ!

憲法は97条で「人権は永久に侵しては行けない」と、これは外せない。

わっ! 透明だと思ったら裏は真っ黒だ!

この意見広告は、2,074人の個人と88の団体の賛同者一人ひとりの思いが込められた賛同金で、つくられています。本広告の賛同者募集(1口1,000円)は終了しました。詳しくはホームページをご覧ください。郵便振替口座「0190-5-53097 口座名「第九条の会ヒロシマ」この意見広告へのご意見、ご感想をお寄せください。 <http://9-hiroshima.org/>

※ 2014年7月31日現在。

前略、失礼します。8/6朝日広告を見てやっぱり力強く思いました。私は今、この政府の誕生から危ない時期がかけ足で 来ると予想し、そのおそれを書いたりして時々知人 たちに配っていますすでに86歳の老人です。声は茶飲み話の中へ消えていくのが相場ですが、それでもと思ってやっております。大きな主張の声は九条の会の人たち位になりました。さびしい限りです。が、期待をします。声を挙げ ない人でも、政治の速い流れにいぶかしさを感じている人は多くいます。戦後70年、もう新しい時代、新しい憲法をとうう 人たちは、実は押し付け憲法と戦後すぐから言い 続けている本流の人たち。日本の技術力をもってすれば世界列強と肩を並べられる軍勢力、軍事大国も容易と考える筋。核も容易の青写真を見つめる人々。とくに野に下るべき老人たちがその主導権をにぎろうとさしている。許せません。彼らの殆どが 口とは裏腹に誠実な太平洋戦争の認識も反省もない。ましてや、南京だいやくさつはなかったとか、戦争 中で何とか免罪符を拾い出そうとしたり、美談を見つけようとする風潮。いくら力でも仕方ありませんが、もう少しの間ぶつぶつ言い続けたいと思っています。にもかかわらずにもご活躍を祈ります。少額ですが同封いたします。笑わんでください。 前川正雄



8.6 新聞意見広告 2014 今年も、掲載することができました！

ご参加、ご協力くださった皆さまのお蔭で、多くの購読者に訴えることができました。

ストップ改憲！ 8.6 新聞意見広告 2014 の掲載

- ・8月6日 朝日新聞大阪本社版朝刊に全15段
朝日新聞東京都心版と山口県版に全5段
- ・8月4日～10日朝日デジタルトップパネル
- ・8月14日 読売新聞東京都内版全5段

紙面について…

タイトル **ここも命も、捧げるもんか**

サブタイトル 戦争と福島第1原発事故を忘れずに、
殺しも殺れもしない日々を続けよう

平和主義を誇りとする私たちは「国」の言いなりにはなりません。今年には安倍政権の軍事国家に向かう政策、原発推進政策など、市民の声を聞かないで民主主義を破壊する政治に対し、きっぱりNOを突きつけようと思いました。

イラストと子どもたち 憲法103条のピースにかけようとしたアベノカバーをはがしちゃお

7月1日、安倍政権が集団的自衛権行使容認を閣議で決定しようとした時、国会前では連日、何千人、何万人の抗議行動が何日も続きました。若い人の動きもありました。全国各地で、もちろん広島でも大小さまざまな講演会が開かれ、連続の街頭行動やデモを行い、お母さんたちも「戦争に行かせるために産んだんじゃない」と子ども連れで歩きました。集団的自衛権行使、秘密保護法や原発再稼働、教育問題、労働問題… 主権者として「安倍政権は憲法に基づき人々の人権を守るべきだ」という強い思いです。憲法前文には「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることがないように…」とあります。子どもが安倍首相を「コラッ」と叱っています。「大人はなぜ平和のために戦争をするの？」と素朴に聞いています。安倍首相はなんと答えるのでしょうか？

メッセージ

お名前の中にあるメッセージは皆さんから寄せられたものです。安倍政策への怒りがたくさんありました。紙面の都合で掲載できなかったことは大変残念ですが次ページに載せています。

英文 海外の方々も読んで共感していただきました。
デザイン、イラスト 九条の会・府中の石岡真由海さんにお問い合わせ、かわいいイラスト、素敵なデザインは好評です。紙面をご覧になって、ご感想、ご意見など、お寄せいただければ幸いです。

原爆ドーム前での配布

8月6日、朝7時から原爆ドーム前で、意見広告のカラーコピーと「市民による平和宣言」を2000枚配布する予定でしたが今年は96年以来の大雨で中止になりました。にもかかわらず、世話人だけではなく、会員さんや賛同してくださった方々も応援に駆け付けてくださいました。鮮やかなカラーのためか受け取りもよく、雨の中500枚も配布することができました。そして、9月9日、9の日行動として500枚配布しました。

なお、何度も確認・校正を繰り返しましたが、それでもまだ、お名前間違いがあるかもしれません。何とぞお許しくださいますよう、お願い申し上げます。また次は、名前掲載に間に合わなかった方々です。(敬称略、順不同) 大西信恵 吉川恵子 都築志津子 小林緑 蒼くんのばあば 広島市教職員組合(新市教組) 長島花樹 東信男・弘子・光子・こまち 岩下佳子 大久保政温 梶原広継 白川猶子 杉林晴行 榎董 田代周司 前川正雄 松尾京治・美智子 松倉和通・よき子・由生子 村上敬子 匿名7人

今年には安倍政権の政策への危機感が強く、昨年より多くの皆さんに賛同して頂きました。それは皆さんが呼びかけてくださったたり、集会や会議で配布して下さったり、ニュース発送等に同封して下さったり、様々な協力して下さったからです。皆さんの思いがぎっしり詰まった「STOP改憲！ 意見広告」が、朝日新聞の購読者の心に届くことを願っています。賛同して下さった約2500の個人(匿名含)・団体のご支援、ご協力に、「第九条の会ヒロシマ」世話人一同、心より感謝申し上げます。(文責・藤井)

2014年新聞意見広告 会計中間報告 (2014年3月～8月)

収入		支出		摘要
科目	金額	科目	金額	
新聞意見広告賛同金	4,446,980	新聞意見広告料	4,211,490	8.6/ 3,911,490円、8.14/ 300,000円
		制作費	150,000	
		通信費	62,400	ヘルプハガキ代
		印刷費	235,406	賛同チラシ112,320円、掲載紙コピー122,986円、他
		送料	13,356	
		事務費	50,000	名簿・宛名シール作成 チラシ同封
		雑費	268	振込料268円
収入合計	4,446,980	支出合計	4,722,920	
収支差引	-275,940円			

例年を上回る賛同者数

今年2014年に行った新聞意見広告賛同金は、昨年を上回る4,447千円でした。収支を差し引きしますと276千円の不足となりますが、この不足分は、当会本会計で補填させていただきます。賛同して下さった方々は匿名を含み2401人を数え、驚いたことに、昨年を大きく上回りました。皆様のご協力に感謝いたします。14年9月2日会計担当 佐々木孝

みんなで作った意見広告 500人からのメッセージ (お名前はアイウエオ順)



・平和憲法のおかげで70年、日本の皆さん、この平和憲法を守って幼子に平和を残して死にましよう！ 94歳！ 相川栄蔵 京都
・世界の宝 九条を守り 広めよう 青木克明 広島
・人が人の命を奪うすべての行為を拒否する。 青山裕彦 広島
・安倍独裁政権を放置してはいけません。即刻打倒を！ 秋草美俊 群馬
・平和は基本、平和なくして全て人生がなりたない。 秋保和徳 広島
・おごれる安倍は久しからず。がんばりましょう。 浅川保 山梨
・安倍政権の暴走を止めましょう！ アジェンダ・プロジェクト 京都
・戦争も原発も私はNO！言論の自由を失うこと私はイヤ！ 大木晴子 東京
・九条に守られてきた「いのち」。これからは私達が九条を守る！ 味村真知子 広島
・我々の九条に手を出すな！ 東邦弘 広島
・戦争のできる国にして自衛隊員を殺すな！ 阿部良之 広島
・殺すな ニンゲンを コトバを そして 殺すな憲法を 新井英吉 宮城
・憲法9条をノーベル賞および世界文化遺産に！ Peace PREVAİL on Earth 荒木健次 三重
・理想論だという人がいる。だけど『9条』があったからこの国は2度としない理想的な国になれたのだと思う。 有田智樹 有田智樹
・戦争は命をかけてはばみません。 有村文江 東京
・この世界から原子力兵器がなくなりますように！ 五十嵐政晴 新潟
・再び戦争する国にはいけません。憲法9条は絶対を守り抜きましょう。池上慶子 広島
・殺されてたまるか！ 池田年宏 大分
・人間社会の自由と平和を奪う戦争への道に反対します。 石黒真理 京都
・9条は我が命だ 守ろう。 石飛宏・石飛清子 山口
・憲法9条はわたしたちの誇りです。 石橋真喜子 広島
・未来の日本、世界のために、原発再稼働、建設はストップ！！ 石原清美・西山明美・岡野千代子 広島
・自衛隊員が海外で一人も殺さず、殺されなかった歴史は日本の誇りです。 磯田典之 広島
・81歳の独居老です。意見広告のお仲間に入れて頂き感激です。人類性の中のあかし第九条、売らず捨てず暮らしに活かす。最高！ 磯谷佳世子 東京
・81歳ですが、ヒロシマのことは、決して忘れません。 市場恵子 岡山
・戦争協力も原発輸出・再稼働も絶対反対です。 伊藤道子 広島
・9条は私たちが幸せに生きていくための大前提です。 伊藤道子 山口
・憲法9条の存在を世界に訴える。日本は絶対に戦争はしない！ 稲生慧 山口
・平和憲法を世界に広げよう。 井上聖文 広島
・原発再稼働反対！ 井上正弘 兵庫
・今ががんばりどき。運動を上げましょう。 井上豊 広島
・命を踏みにじることは国だって許されない、許さない。 井野口慧子 広島
・憲法9条は私たち日本人の誇りだ！！ 井原俊博 広島
・みんなの大切な憲法を守りたい！ 今田順子・大坂雅明 千葉
・九条・非暴力・平和主義こそ政治の原点。 今村直・路加 東京
・公認される戦争などありません。闘いや人殺しのない解釈法を！ 岩本恵子 広島
・日本の良心をまもろう！ 植木和夫 広島
・解釈変更こそ憲法違反です！ 植草みどり 熊本
・国を守るために戦うとは即ち人を殺すこと。何の責任もない人を。鶴岡礼子 京都
・憲法第9条にノーベル賞を 宇佐美睦朗・宇佐美節子 沖縄
・壊憲王安倍に退陣を。 宇佐美睦朗 沖縄
・安保条約によって日本は米国の戦争に加害者として加担させられた。 日本は戦死者310万、日本軍によって殺された人2千万 内坂晃 大阪
・日本は戦争をしないことを決めたいです！ 江口良二・江口はるみ 埼玉
・日本国憲法が生きる社会を！国民こそ主人公！ 江崎勝之 広島
・アベ達を除きましょう。 江澤即心 山口
・戦争時代を生きた人は若い人に戦争が何であるかを伝えてほしい。 エスペラント友の会 兵庫
・戦争のない日本がずっと続いてほしい！！ 大石照夫 広島
・相手を知ること、ちがいを楽しむこと、これぞ平和の第一歩！ 大久保祥子 神奈川
・保守の伝統・美学・哲学などをかなぐり捨てた安倍政権は、軍政復古妄想狂と化している。外交より武力で事に対処しようとしている。戦後70年を水泡に帰してよいか。 大久保敏明 愛知
・戦争なんてぜったい・ぜったい嫌だ！ 大越京子 広島
・勝手に憲法を変更してはダメでしょ！ 大越敏男 東京
・未来を創るのは私たち。命を大事にしたい。正しいものを伝えたい。 大島浩司・純子・悠・萌・暁 広島
・すべての武器をすてることこそ真の勇気です。 太田紀子 三重
・ダメなものはダメ！戦争絶対反対！原発絶対反対！人間だから。大田美智子 兵庫
・戦争反対！！ 太田稔 三重
・何回でも死ぬるまで反対する。 大西信恵 香川
・わたしたちの意識と政治がこんなにカイリした時はない。わたしは非国民？ そんなことはない。政府は国民を大切にするのが仕事だ！ 大野静音・大野兼嗣 東京
・戦後70年、日本の平和を守ってきたのは憲法！！改憲も拡大解釈も絶対反対！！ 大野てるよ 広島
・ガラバコス政権はいらない。 大林トヨ子 神奈川
・どんなに時間がかかっても、安倍さんをはじめ政治家には、相手国の気持ちも考えた外交で、軍事に頼らないで、本当の世界平和に向けた真摯な政治に舵を切り直してほしい。必ずできると強く信じています！ 大森鈴香 東京

・若者を戦争で殺すな！ 岡田晋輔 東京
・戦争絶対反対 岡田信也 香川
・余命の使命は平成のナチスとヒトラーを封じて、9条を輝きわたらせることよ。84歳。 岡田黎子 広島
・憲法破壊、許さない！ 岡野政俊 広島
・戦争絶対反対 岡野峰夫 広島
・殺し会あわずに話し合おう！人間だもの 岡松美香・岡松健吾 福岡
・戦争は嫌です。人に殺されるのは嫌です。人を殺すのはもっと嫌です。岡本剛 大阪
・9条は風前の灯です。一人ひとりが大きな声を上げて 流れを変え、平和日本を実現しましょう。 岡本茂樹 福岡
・平和とは、悲しみを共にすること 生きるとは、喜びをわけあうこと、岡本法治 広島
・日本は戦争をしない国です。これからはもう一つと 小川桂絲香 神奈川
・戦争をしない国をつくること。それが私たちの願い、そして使命 小川佳江・高森忠則・土井健史・小山友康 広島
・集団的自衛権絶対反対 小川良則 東京
・戦争は絶対にダメ。今こそ一人一人が真の人間に立ち戻るべき時です。沖道子 埼玉
・愚直に、離すな、九条 奥下厚子 香川
・戦争・紛争からは平和を創出できない！ 小口卓也 東京
・日本国憲法は世界の希望です。 奥村清明 秋田
・憲法を殺さず。憲法が絞めるのは内閣だ。長南博邦・池奈美枝・千葉美佐子 千葉
・九条を全世界の国に！ 平和憲法を骨抜きにする自・公憎し。押部禎一 福島
・みんなの無関心 悪政の栄養 小田切敬子・小田切詩帆 東京
・多くの犠牲者を出した戦争を反省して出来た憲法を守り抜きたい。小谷恵美子 広島
・死の商人を肥やす政策。幼少からの平和教育闘争を国民全体に広める必要があり。大変重要。 小野邦英 東京
・自衛隊員を死地に赴かせてはならない！ 折口晴夫 兵庫
・平和憲法を守るのは、参政権を持つ私たちの責任です。折原壽美子 東京
・九条は日本の宝、世界の宝、絶対に日本を戦争できる国にするな。86歳の年金者。女学校の生徒動員で中島武蔵製作所へ。やっと生き残って得た民主主義を失った日本は後進国だ。戦争をしない国、日本をずっと守りたい。 甲斐恵美子
・守り方は色々あるんだ、平和な平和の守り方。小さい声でも、みんながずっと言い続けよう。『平和憲法を守ろう』 加川恵子 広島
・あなたは子や孫を戦争に行かせるのですか？ お母さん、おばあちゃん、子や孫が戦争に行かないようにしましょう。 笠井津伍 長野
・秘密保護法廃止！集団的自衛権は憲法違反で取り組みましょう。梶原義行 兵庫
・今こそ反戦平和の声を！！ 春日井学校労働者組合 愛知
・集団的自衛権の『解釈改憲』を絶対に許すな！ 粕谷力・粕谷陽子 東京
・戦争終結時に生まれました。こんな時代がこようとは夢にも思わず、情けなくいたたけられない思いです。 片岡京子 大阪
・軍事に頼らず平和な世界を実現することこそ現実的。他国も自国も血を流さない共に生きる日々を私たちは望んでいます！ 勝連夕子 熊本
・『命』から九条をみつめよう♡誰がどんな理屈をつけようと九条は大切！ 加百智津子 岡山
・アベが戦争を始める。その前にアベがつぶれる。憲法が勝つから。廃墟に立って泣くよりも、今、憲法で食い止める！明日では遅すぎる。憲法守るのは今！ 加藤敦美 京都
・第九条をかかげ、人類の先行ランナーとして進もう！ 加藤淳子 広島
・ていねいな取り組みと報告に心から共感しています。 加藤純子 大阪
・アジア諸国への加害の歴史を正視しよう。 加藤徹夫 広島
・知憲・活憲行脚の旅 加藤正之・楓 広島
・歴史に学び、騙されず、流されず、忘れずに生きていく。加藤美智子・裕二 北海道
・私は戦争を知らない。これからも知らずに生きていきたい。加藤裕二・加藤美智子 北海道
・9条は国を愛する心の源、私たちの誇りです。 角野章子 東京
・自衛隊は武器をすて災害救助隊になる。世界中で歓迎される！金子尚子 神奈川
・集団的自衛権行使容認、原発再稼働、国賊的行為です。金子百合子 神奈川
・お父さんたち世代が安倍政権の暴走を許したからこうなった、と孫や子どもにいわれないために 兼崎暉 福岡
・日本と中国と一緒に尖閣沖海底油田を開発すればよい。戦争を止め共存のため協力を！ 兼綱寿美子・岩木久満・芳子・小野セツ 広島
・今まで守ってきたものを簡単に譲るなんてできません。命あつてのものだネ！ 亀田康子・末広円・智 広島
・憲法9条はどうしても守りたい。 唐澤智明・唐澤清美 広島
・"国選投票率を上げ、早く安倍首相を交代させよう！1,000兆円余の国財政破たん、脱原発決断できない男 河合成久 兵庫
・原発と同じく、ならぬものはなりません。 川井ひろみ 福島
・今止めないと人間性を喪失した権力者は戦争を起します！ 川本正晴・川本咲枝 広島
・公正な平和憲法、真の法。日本国の平和憲法こそ国際社会に生きる国のルール 岸恵子・岸秀子 佐賀
・安倍内閣は第9条の骨抜きとセットで『教育再生』の名目で子どもたちの内心の自由・自主性を奪い『戦争』へ向かわせようとしています。第9条を守り抜きましょう。 吉川徹忍 広島
・憲法9条に未来あれ！！ 木戸さやか・衛一・理人・杏菜・志遠 京都
・日本を再び戦争をする国にはなりません。集団的自衛権に断固反対！ 木野奈緒美 広島
・安倍首相は憲法を読んでいない？ 広げよう `平和憲法、を世界へ…。9条は世界の宝です。 木林佐和子 東京
・今こそ、戦争してきた国アメリカに守られたニセの平和ではなくほんとうの平和を！ 木村宏一郎 神奈川

・人として尊重される国にしたい。9条はそのために必要です！ 儀保唯 広島
・国民の2割の支持政党による平和憲法空洞化は許してはならぬ！ 九条の会・呉 広島
・『9条』こそ『積極的平和主義』そのものです。日本は特別な国でありたい
ものです。 共生舎なずな薬局 村尾知恵子・村尾望 東京
・憲法第99条に違反し続けるアベはもはや首相どころか国会議員たる資
格すらない。即刻議員辞職すべし。 桐澤哲郎 広島
・いつも大切な働きをありがとうございます。 空想民族音楽SAYAN 広島
・守ろう平和憲法 鉦路YWCA 北海道
・9条はノーベル賞を越えて行かねばなりません！ 久世裕子 京都
・大阪の国民学校で友だちを殺されました。戦争をしてはなりません。 工藤洋介 新潟
・平和がいい 久保直恵 東京
・集団的自衛権行使容認の『閣議決定』は憲法9条を破壊する暴挙、撤
回させるまで闘い抜きましょう 久保田昇 長野
・もっと考えよう9条！ もっと話そう9条！ 一人一人の小さな願
いを大きな力に！ 蔵並弘子 神奈川
・日本国憲法は世界の理想です。現実を高い理想に向けていかなくては。
グリーンブリーズ平木・高林 広島
・子や孫に平和のバトンタッチこそ歴史遺産 栗木黛子・栗木耕作 東京
・人を殺したくないし、人に殺されたくもない。軍事国家化に反対！ 栗原彬 東京
・閣議決定撤回 9条を軸に外交を展開すべし。 黒木潤 広島
・信じられる未来を下さい！だから憲法第九条！ 黒田順子 埼玉
・平和憲法 世界の宝 黒田幸夫 宮城
・砂川事件の判決文？あの程度のヘリクツで集団的自衛権を通すとは何と姑息な。
地に墮ちた日本政治の極み 桑田健吾・桑田武子 広島
・三日目の被爆地東北から熱い連帯の心をお伝えします。 後藤東陽 宮城
・憲法を生かした社会を 小泉正雄 千葉
・がんばって 自民党には投票しないで下さい。 濃沼誠 神奈川
・私達の行動はおてんとう様がお見通しです。 高力英夫 神奈川
・憲法9条は日本の宝、世界の宝、守り抜きましょう。解釈改憲など、もっ
てのほか！ 小坂義孝 広島
・とりもどすな！！ 戦争ができる国日本！ 小林恵美子 北海道
・積尊の教えに立ち返り、あくまで非戦・不殺の誓いをつらぬこう！小林幸生 広島
・政治家の最低限の仕事、戦争しない、させないこと。 小林義朗 広島
・もはや戦後ではない。つまり戦前だってこと？ 小原富美子 大阪
・戦争への芽は一つでも残さないよう早く摘みましよう。 小柳節子 千葉
・憲法を守らない裁判官や党や首相がのさばっているのは世界で日本だけ
小山高澄 大阪
・第9条は集団的自衛権を許しません。閣議決定は無効です。近藤野百合 兵庫
・憲法9条がノーベル平和賞に選ばれますように。 近藤寛子 愛媛
・亡き夫とともに意見広告に賛同します 近藤弘子・近藤徹 大阪
・戦争をする国にさせない。 斎藤邦泰 埼玉
・戦争できる国づくりより戦争したくない国づくりの声を大切に世界に広
めよう。自民石破と維新の風が、人々に広がり、まだまだ憲法の心を
語り続けます。 坂健二 奈良
・9条はQ条ではなく救条です。 坂井章・記美子 広島
・日本国憲法は平和憲法であり世界の規範です。絶対変えてはならない。酒井弘行 大阪
・断固憲法9条を守りましよう。 坂本秀行・坂本都子 千葉
・平和憲法最大の危機。声を大にして護りましよう。 坂本文夫・裕子 東京
・青い空は青いままで子どもに伝えたい。 佐久間雅子 広島
・歴史の逆行は絶対に許さない。 桜井邦彦 岐阜
・核をなくす為にみんなで一歩ずつ進みましよう。 佐藤晶子 東京
・幸せのライフライン憲法九条 佐藤武久 長野
・アベ内閣の集団的自衛権行使容認は許されません。とんでもない越権行
為、憲法破壊行為です。 佐藤信義 大阪
・手をつなぎ 心をあわせ 声をだし戦争止めよう みらいのために
さしはやよい・佐橋京四郎 東京
・一番大事なものはみんなの命、健康だにゃあ！ 佐藤直子 東京
・子どもたち、孫たちに、平和のバトンを渡したい。 沢口悦子 石川
・年金生活となり少額ですが、気もはたくさんです。 汐崎啓子 京都
・非暴力こそ平和の礎。改憲反対！ 志岐玲子・春口和子 福岡
・子々孫々のために声を大きく上げたい。ファイト～！ 品川康博 広島
・第九条を世界遺産に！！ 柴田和子 愛媛
・武器を使えば必ず死者が出ます。自衛隊は武器を使わないで。
下末かよ子 広島
・大切なものが済し崩しのように壊されようとしている今、連帯の輪を広
げていきましょう。 城英介 広島
・日本国民は『政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないやうに
することを決意し』（前文）た国民だ！ 白井千也 広島
・この世に正しい戦争はない！ 白石恵美子・鈴木麻紀 埼玉
・産まれてくる孫に平和な未来 白砂やす子 広島
・反戦平和国家厳守 城山大賢 広島
・平和憲法を守りましよう 神宮寺敬 山梨
・さよなら安倍政権 九条は不滅だ！ 新宅弘彦・新宅かをり 広島
・全く！ この国はどうなってしまうのでしょうか。でも、あきらめず、や
れることをやっけていきましょう。 新藤知樹 東京
・『集団的自衛権行使』に激しく抗議します。平和外交に知恵を絞ること
こそ人権を守る道です。 新保幸子 大阪
・次期総選挙で自由党？候補者には絶対投票しない。 季平博道 広島

・9条ノーベル賞を日本が狙みませんように。 菅茂樹・みゆき・こゆき・惇 広島
・戦争は政治の失敗です。 杉原豊子・杉原直 長崎
・戦争放棄よ、永遠に輝け！ 鈴木一功 福岡
・日本の路は、核なし 鈴木哲朗 東京
・子ども孫も教えた子たちも戦争に送らないゾ！ 鈴木ひろえ 北海道
・どのような策動があろうと一部のコアがブレなければ、今の流れをくつがえすことが
できます。秘密保全法を絶対に葬り去りましよう！ 鈴木聖幸 広島
・貧者の一灯を送ります。粘り強く歩みましよう。 鈴木三千翁・多恵子 兵庫
・日本国憲法を世界中に！！ 隅り一・祐之 東京
・第九条こそ世界平和の原点です。 関根義夫・関根智子 埼玉
・集団的戦争権の閣議決定は憲法に明確に反する。安倍内閣打倒！高井公生 大分
・戦後すぐに始まった画策がついに仕上げの時を迎えている。怖い。高岡純子 福岡
・生命を脅かす改憲や解釈は許せない！9条で命を守ろう！ 高木伸子 東京
・大人は『戦争を認めたの？』と孫たちに言われぬように。高木美栄子 東京
・戦争したくない！行かせたくない！多くの人がそう思っている。高崎孝子 広島
・声を上げる機会に加えられ感謝します。 高寺一紀・高寺幸子 兵庫
・新聞意見広告、永久に続けましよう。 高磨真佐子 広島
・これからも戦争をしない日本であってほしいです。 竹内悦子 千葉
・子ども達の未来のために 竹内貴美子 広島
・大切な子供を戦争（自衛隊）で殺すわけにはいきません。武川貴美子 埼玉
・殺すなかれ！いのちを守ろう！ 武田隆雄 東京
・今の内閣にはざわざわとした不安を持っています。 武田久子 愛媛
・平和を愛す 竹田康生 広島
・9条を生きる ヒロシマの風に耳をすませて 竹原陽子 広島
・安倍政権に終止符を！原発再稼働、集団的自衛権行使など安倍内閣のやろうと
していることは国民の生命を危険にさらすことばかりです。田坂量慈 広島
・戦争に命を渡さない！ 田崎洋一・田崎加代子 熊本
・今がその時です。ふんばりましよう。 多田恵子・多田正哉 島根
・憲法の基本精神をふみにじって、再び戦争への道を絶対認めることはできません。
国民の同意なくして戦争はできない。現在の政権の危険の意図を国民が見抜き、
戦争への足がかりを取り払っていくことが肝要です。 田中暉彦 香川
・『戦争をしない』と誓った憲法9条を守り、世界に広めていきましよう！田中之浩 熊本
・ほんとうの頑張りはここから！ ネバーギブアップ 田辺学 広島
・孫たちに永遠の笑顔を 玉井みちよ 愛媛
・憲法9条を守ることは仏さまの願いです。 旦保立子 埼玉
・誰も殺さない、殺されない 憲法は私たちの宝 辻村玲子・椰子・翔・朱鷺 広島
・これから生きていく子どもたちのためにも、戦争と差別のない社会の
実現を！ 堤和子 福岡
・憲法9条にノーベル平和賞を！！ 椿啓子 大阪
・全国的にやりたい取組です。ね。(フクシマの男) 円谷寛 福島
・子どもたちの未来を守る。 鶴見正行 埼玉
・『死の商人』をただちにやめよう！ 寺尾浩次・安子 東京
・平和なればこそ、私は生きられる。 寺尾文尚 広島
・近代150年、富国強兵の70年を平和憲法の70年が自登をもって追
越します。 土井登美江 東京
・いかそう暮らしに憲法を、今でしょ。 道津弘二 東京
・ウクライナに、シリアに、9条があれば、必ず解決できるはず。積極的
平和主義ではダメ 時里勝 滋賀
・命どう宝 今こそ 憲法守れ 平和を守れ 渡口差知子 大阪
・戦争は最大の環境破壊だと思。 戸野寿美江 広島
・安倍政治の憲法違反を告訴しよう。 富永昭治 広島
・憲法9条はアジアへの謝罪 豊岡美智子 東京
・何と言いつえよう戦争はダメ仲兼久遊美・仲兼久 東京
・平和は築くもです。武力で平和は守れません。 中川瑞代 東京
・戦争は犯罪です。罪を犯さない国になりたい 中里好郎 兵庫
・憲法九条は究極の積極的平和主義です。中島真紀子 千葉
・戦争に突き進む安倍を許さない！ 中谷悦子 広島
・希望の灯で、いつもありがとうございます。 N・K 大阪
・戦争をしないことの誇りを持った国、それが日本だと思います。
中村幸司・中村訓子・周平・有作 愛知
・平和がいいよいよ、より必要になってきました。 中村信義 兵庫
・沖縄を沖縄に返せ！ 中村盛博 広島
・武器・原発、輸出する国愛せない。 中山誠一 静岡
・安倍政権打倒！！ 成田強 北海道
・輝く太陽 青空を再び戦火で汚すな 西茂子 東京
・戦争は絶対に絶対に絶対にいけない。しかし、兵器産業と政治家は儲かるので
国民をだましても戦争をやりたがる。 西家美智代 岩手
・命が宝の平和憲法の精神を守りたい！ 西川恵子 広島
・69年続いた平和の礎・平和憲法を守りましよう。集団的自衛権も特定秘密保護法もいり
ません。厳しくても反戦・反核・反原発でがんばりましよう。西川啓子・根本博 大阪
・孫たちに平和な日本を！ 西原寿美子 神奈川
・世界に誇れる憲法9条を守ろう。 二宮末雄 広島
・平和な日本を守りたい。 根石妙美 広島
・憲法9条は人間の指針！ 根岸明子 大阪
・特定秘密保護法を廃止へ力を結集 野尻賢二 大阪
・憲法破壊の隠議決定 隠？全員クビ！！ 野瀬吉夫 兵庫

・先制攻撃可能な集団的自衛権は軍事同盟だ！ 野村晋一 東京
 ・呉に定年まで勤務しましたので、ヒロシマのことは身近に感じ、92歳の今も反原爆・反原発運動をやっています。 萩原卓 千葉
 ・今の子どもたちを守るべく『九条』この運動に強く賛同します。 橋本あき・橋本希和 福島
 ・平和が一番！ 長谷川薫・弘基・奏 岡山
 ・子や孫を戦場へ送り出してはならない。畑真理子 富山
 ・九条は世界の宝 服部昌男 北海道
 ・5歳の時、広島に地爆心地から3kmで被爆しました。戦争のない、核もない世の中を、平和を、ひたすら望んでいる老婆です。 波藤紀江 広島
 ・平和への祈りを乗せた列車は広島より世界へ永久発車！花ノ木清子 広島
 ・戦争につながるものは全ていやです！ 浜田美保子 広島
 ・集団的自衛権に反対です。武力で平和な世界はできません。浜根和子 広島
 ・市民ひとりひとりの平和への意識が世界の平和を築く一歩 濱本緑 兵庫
 ・危機であればあるほど人らしく生きるよう努めたい。 林田英明 福岡
 ・日本憲法は素晴らしい。改憲反対の声がたかまることを願います。原邦子 広島
 ・何としても憲法を守ってください。守りましょう！ 原弘美 高知
 ・九条は人類の生き残る道です。 原田賀久子 広島
 ・『歴史は繰り返す』緊張を煽り、70年前の論に戻る様な風潮…。我々は 日置勲 大阪
 ・『戦争のできる国作り』に反対します。 菱木康夫 大阪
 ・コストリカは軍を廃止してサッカーW杯ベスト8！日本も自衛隊をなくせばサッカーも強くなります！！ 兵頭圭介 東京
 ・憲法9条永久に匂！ 平井紀子 京都
 ・婆の最後の願い 平田香都子 広島
 ・忘れません。あの大戦で多くの命が失われたことを。 平谷敬子 愛媛
 ・教え子を再び戦争に送らない 広高教組大竹分会 広島
 ・広島 国民の命と健康を守る9条、25条の遵守を強く求める ひろしま医療人・九条の会 広島
 ・改憲は不要。平和な日本を守って下さい。 広島市市民病院職員労組 広島
 ・七月一日オラは死んじまったダー九条 H・Y 広島
 ・戦争をしない国であることに誇りを持ちます。昭和20年8月の原点に帰るべき。冷静に、はっきりした行動が求められている。 福岡行子 熊本
 ・戦争は人殺しだ！大義などはない。 福田典子 広島
 ・憲法を活かす道があります。 藤井郁子 山口
 ・9条を世界に広めよう。人類の希望 9条をまもろう。 藤井英二 広島
 ・国家は引続き不能。争か和か。勇氣アル？からの謝揮？のみが局面打開のカギです。九条が正解。 藤井慶輝 富山
 ・フクシマの核惨事は、原発が原爆という原形に立ち戻ると時代を開いたと思う。 藤岡惇 京都
 ・9条とともに生きる。 藤澤宜史 広島
 ・アメリカの植民地にされるTPPに反対 藤野美津子 広島
 ・九条を活かせ！ 藤村美登里 広島
 ・だまされるな若者よ、目見開きよく見よ、9条こそが命をつなぐ最後のとりでぞ！ 船津晶子 広島
 ・1945年6月生まれの子は小学校3年生の時に映画『原爆の子』を見ました。以来、核の恐ろしさにおびえました。原発反対の意思表示として。電気料不払いを20数年続けました。 古澤久美子 東京
 ・憲法9条は日本の宝です。原発や武器より憲法9条を輸出するべきです。 古家美智子 広島
 ・強い国より命を大切にす国に住みたいよ。 古屋敷一葉 広島
 ・九条を日本のブランドにして売り出そう！平和憲法を広める泊江連絡会 東京
 ・全世界の人々が手を取り合って仲良く暮らしていくことを望みます。平和な社会と輝く明日 戦争は大キライ 平和が大好き！ 北海正美 京都
 ・核兵器も原発も生きとし生けるもの敵！集団的自衛権も命奪うもの！ 堀美保子・堀俊彦 東京
 ・今すぐ止めたい安倍暴走 堀尾昭子 兵庫
 ・憲法99条に反する議員に、憲法をいじくる権権限は無いはず 本多照夫 神奈川
 ・平和に生きる権利を守ることが私たちの義務 前田恵子 山口
 ・過去の戦争の苦しさを絶対にくり返さないため、憲法九条を確実に実行し続けたい。全世界にアピールを 前畑ゆかり・前畑章子 神奈川
 ・2014年7月1日に私の愛した日本国憲法が、乗っ取られた。現内閣によるクーデターに。平和主義の日本で暮らす倅は終わった。 前畑ゆかり 神奈川
 ・憲法9条をないがしろにする集団的自衛権閣議決定は許せません。牧野直子
 ・みんなで守ろう！！ 正木峯夫・正木和子 広島
 ・ただいま、戦争への準備、進行中！ 正富久子・服部悦枝 岡山
 ・平和と地球環境の維持は、私たちの最大の責務です。松井忍 愛媛
 ・わが子は決して戦場には送らない！ 松井淳子 広島
 ・戦争をしない国に生きていること、誇りです。 松井宏光 愛媛
 ・今生かされていることの証に伝えよう『九条を世界に』 松浦恵子 広島
 ・安倍暴走族の『憲法9条解釈改憲』への突進を世論が許さない。『戦争のできる国』には断固反対 世界の宝日本国憲法 松浦住一 兵庫
 ・声高らかに平和を希求し、未来の子どもたちのために福祉を築こう！ 松田ちから 愛媛
 ・戦争のできる国をめざす安倍政権あきまへん！原発再稼働はならぬ！ 松藤富隆・松藤比沙子 広島

・九条は日本人の誇り 松村有恵 山口
 ・有権者の3割程度の得票で権力をせしめている首相が、国の最高法規の解釈を変えるのは言語道断 松村節夫 広島
 ・負けぬ！だまされない！上を向こう！負けるもんか！上を向こう！ 松本清子 熊本
 ・日本国憲法9条は世界の宝、人類の宝、です。 松本正次 広島
 ・戦争をしない国を確立したいです。 松本陽子 東京
 ・領土問題等で隣国と不仲になっているのが心配。 三浦昭二 大阪
 ・9条を世界遺産に 三浦翠 山口
 ・微力ではあるが 無力ではないを念じて。 三上弘志 西矢恵子 大阪
 ・戦争をしない国 日本。九条で平和をつくる国 日本 三上昌子 東京
 ・現憲法を守り孫子の時代にも銃をてにせず暮らせるよう祈ります。 宮川久美 兵庫
 ・青年よ銃をとるな！青年に銃を持たせるな！ 三芳英教 兵庫
 ・戦争か平和か？ 今その選択が迫られています。 三輪幸雄 東京
 ・殺すな！殺されるな！ 向井美香・植田悦子 大阪
 ・9条は、はずせない日本の心臓だ！（向井） 戦争をしない国を！（山田） 広島
 ・『戦争をしない国』はすでに日本の誇りある伝統です。未来のためにも死守を！ 宗近弘武 東京
 ・武器では平和は創れない。歴史が証明している。村上啓次茨城
 ・今こそ日本国憲法の大切さを世界へ 村田芳栄・昌子 茨城
 ・限られた地球のうえで、人はなぜ争うのでしょうか。毛利亮子東京
 ・安倍政権の憲法違反を止めよう！ 森紀子 東京
 ・殺したくない 殺されたくない 森雄二 愛媛
 ・子どももいない高齢者ですが、被爆者の一人として未来のため意志を伝えたいと思う。 森礼子 広島
 ・平和のために小さな行動から！ 森岡純子 京都
 ・秘密法廃止！ いつもありがとうございます。 森川弘子 広島
 ・憲法九条は 広島は宝 日本は宝 森下博之 広島
 ・21世紀も1/7が過ぎようとしている中、20世紀にしがみつき、19世紀に逆戻りさせようという動き、ナンセンスそのものです。 森田幸宏 東京
 ・IMAGINE PEACE! 森山洋子 広島
 ・子ども、孫たちの未来は『脱戦争』でいってほしいですね。 八木敦子 山口
 ・横柄で無神経な歴史認識と右傾化に憂慮しています。 安井明美 愛媛
 ・次の世代に平和憲法を変えずに渡しましょう！ 山内恵子 北海道
 ・『戦争をする国』に戻るな！ 山縣昌彦 埼玉
 ・戦争の記憶 原爆大空襲 ベトナム枯葉作戦 イラクフセインせんめつ 石油利権 アフガン無人機空爆 山川賀世子 東京
 ・第九で希望を第九条で平和を 山口裕子 広島
 ・奢れる者は久しからず。憲法第99条違反により、安倍内閣と自民党国会議員、公明党国会議員を告発する。 山下董 鳥取
 ・子どもたちを絶対に戦場に送ってはいけない。 山下れい子 静岡
 ・安倍政権を誕生させた日本の有権者は国際正義に欠けます。 山田章博 大阪
 ・いま、憲法はますます新鮮です。 山田和幸 京都
 ・集団的自衛権の行使容認に反対 山田文雄 広島
 ・戦争を知らない世代の政治家の暴走、何としても止めなければなりません。平和憲法は絶対に守りましょう。 山本祥子 京都
 ・アベのファシズムを許さない 山本芳子・佐藤照代 東京
 ・戦力・武力競争は文字通り矛盾。戦争は恰好よくありません。本や映画や演劇、講演などで若い人々よ、深く想像してみてください。 山脇哲子 東京
 ・太陽の国日本から世界中を愛で照らしましょう！人殺しはしてはいけない！させてもいけない！命を大切に！ 八幡千栄子 愛媛
 ・ガンジーの精神を継承しよう。 弓場章弘 広島
 ・『あの時、なぜもっとNO!と言わなかったのか』と後悔しないために、ささやかですが、賛同表明します。 横山篤夫・横山芳子 大阪
 ・誓、新たに『あらかに眠ってください。過ちは繰り返しませぬから』 吉田真理子 広島
 ・積極的平和主義は積極的武装主義 吉永愛子 東京
 ・9条の理想を手放すことがあっては人類、未来の人に対しても恥ずかしい。改憲反対の国民の声を解釈変更で封殺しようとする卑怯なやり方に怒！ 吉野典子 東京
 ・日本は『戦争しない国』を世界にアピールしよう。 吉原美玲子 広島
 ・無関心、来た道を繰り返すの！ 吉光成美 広島
 ・戦争する国、絶対反対！！ 戦争はぜったいにいやです。中国とも韓国とも話し合っていくべきです。 吉村りよみ 千葉
 ・安倍内閣の集団的自衛権強行は憲法無視の暴挙。 米田良克 北海道
 ・永久不戦 反原発 寄親定夫 東京
 ・国家権力の勝手な暴走を、主権者の力を寄せ合って食い止めます！ 秘密保護法廃止を求める署名集めにとりこんでいます。 和氣文子 長野
 ・戦争させない。させてはならない。平和に仲良くくらしたい。 脇義重 福岡
 ・憲法9条を世界の宝に。ノーベル平和賞の授与を！ 渡辺清 宮城
 ・つらぬけ！平和憲法。 渡部勝 愛媛
 ・地球（世界）憲法九条にしないといけませんね。 渡辺道子 広島
 ・財産は9条だけ

*皆さんのメッセージを多く掲載したくて小さくなってごめんなさい。この他チラシ希望、配布しますという応援や当会へ激励も沢山寄せられて、心強く、感謝の気持ちでいっぱいです。有難うございました。



京都にも新たな米軍基地が!!

Xバンドレーダー基地反対の闘いと沖縄 講演会報告

京都にXバンドレーダー米軍基地

8月23日、基地問題に大いに懸念を持つ人々が集った。「岩国基地の拡張・強化に反対する広島県西部住民の会」（略称：西部住民の会）は、結成した当初からできるだけ全国から講師を呼ぶことにした。それは基地問題は、単に一つの基地だけを見て対象にしていれば解決できるものではないからである。2005年の結成集会には厚木から、その後も東京、横須賀、沖縄、種子島からなど講師をお願いしている。このたびは、最もホットな京都から大湾宗則さんを迎えた。

2013年2月に日米首脳会談で、京都府京丹後市の経ヶ岬に米軍のXバンドレーダー基地建設が確認され、12月に地権者からの土地借り上げが完了し、ついに2014年5月27日に工事着工となり、関西初の米軍基地である。

大湾宗則さんは、沖縄県の出身で近畿圏において沖縄の基地問題に長年取り組んできた人である。だからこそ「沖縄に要らないものは京都にもいらない」という強い気持ちを抱き、沖縄県人会に働きかけた。「沖縄と一緒にやるならやる」と同意を受け、米軍Xバンドレーダー基地反対近畿連絡会が結成されたという。

大湾さんは、まずXバンドレーダーとは何か、このような軍事機器と集団的自衛権行使との関連、集団的自衛権の最前線基地といえる沖縄、そしてこれらの状況に京都はどんな闘いをしているかを歯切れよく説いた。大湾さんの信念の一つは、運動を進めていくには単に怖いとか安心安全のためにとかいうのではなく、正確な軍事問題の知識を持ち日米地位協定を熟知しておくことが大事ということである。その信念に裏打ちされて講演内容は分かり易く明快であった。さてご承知のようにバンドとは周波数のことである。L（長）、S（短）とあり、Xはラテン数字の10であり、大変短い周波数である。従ってXバンドレーダーはその性質により、1,000Km以上先の飛来物の形状も把握できるという。それを生かして、弾道ミサイルを探知・追尾し、イージス艦や迎撃ミサイル部隊に情報を送り、ミサイルを撃ち落とすシステムだという。京丹後市経ヶ岬に設置されるこのXバンドレーダーは、グアムの米軍基地方面へ向かうミサイルをより前方で探知・追尾するためのものと米軍は述べている。戦争の際には真っ先にレーダー基地が攻撃の対象となることは明らかだから、周辺住民にとっては迷惑以上の命に関わることである。このような施設が設置されるようになってしまった経緯は、将来が描けない過疎地に防衛省は破格の借地料を提示して、同意しない地元民には村八分の恐れを匂わし一筆を残して全て契約を取り付け、工事に持ち込んだのだという。

基地反対運動のひろがり

それから大湾さんたちは、誠実に丁寧に1戸1戸を訪問し、経ヶ岬にXバンドレーダーが設置されると、イージス艦が配置されている舞鶴港や滋賀県饗場野にある日米共同演習場などと結ばれ、近畿の一大軍事基地となることやそれは集団的自衛権の行使容認と相まって東アジアに大いなる緊張を高めるものだと説いて回った。その結果現在「米軍基地受け入れ撤回」を求める運動が展開されている。なお当然のこととして「現地の当事者こそが主

西浦紘子（岩国基地の拡張強化を許さない！広島西部住民の会）

権者として声を出し行動すること」を基本として活動しているという。まことにこのXバンドレーダー基地建設は、東アジアの軍事的緊張を高め、日米軍事同盟をさらに強化していくものであるし、近畿地方に米軍基地をさらに建設していく突破口となり、「沖縄の負担軽減」を口実に岩国基地を強化・拡充しているように米軍基地を全国展開する糸口となることは明らかである。

岩国からの報告

愛宕山を守る市民連絡協議会代表の岡村寛さんによって行われた。2005年に合意された在日米軍再編に伴う空母艦載機部隊岩国移駐のための米軍住宅の建設が5月15日に着工されてしまった。例によって防衛省は関係自治体に形式的な説明会を持ち、それに対する大きな不満の声が上がると、要求項目を文書で答えるという稀な誠実さを示したが、突如、姑息にも早朝から工事にかかったのである。この強引な住宅建設を初めとして、KC130の移駐やオスプレイ訓練の拠点化が本当に沖縄の負担軽減になっているのか、辺野古新基地の建設は単に普天間飛行場の代替ではないだろう、辺野古新基地建設によって在日米軍の軍事力はさらに強化され、2017年に在日米軍再編が完了したときは、岩国が再編の中心となって、日本中の基地機能がさらに強化されていることになるのだろうと日米両政府に対する激しい怒りが報告された。この日、アメリカの国防副大臣が日本の防衛副大臣と会談し、岩国基地にKC130空中給油機や空母艦載機の移駐の上に、最新鋭ステルス戦闘機F35も新たに配備するとし、「岩国は日本における米軍再編の中心だ」と強調したことが報道された。岡村さんの怒りは日米両政府の目論見を悔しいことに言い当てている。

吉和からの訴え

吉和では米軍機の低空飛行訓練が盛んに行われている。原発事故から逃れて3年前に福島から移住してきた渡辺美和さんからお話を聞いた。静かで過ごし易い所と思って引っ越してきたが、米軍機の低空飛行訓練の轟音に悩まされていることが述べられた。記録したり行政に電話をしたりしていたが、その瞬間にまた次の騒音、すっかり参ってしまったという。土地の人々がなぜ騒音のことに口を閉ざしているかわかってきたという。それは気にしていたら日常生活が妨げられ、従って触れないという悲しい知恵だと知ったという。幼い子を持つ母親として様々な工夫をして子を守ることに思いを巡らしている不安と苦悩が訴えられた。

最後に大湾さんは、沖縄の島ぐるみ闘争について歴史を追って話を進め、沖縄がもう「沖縄は日本との将来を決める」という胸突き八丁まできていること、沖縄の鍛えられた力が極限近くまで来ていること、しかしながら本土はそれを全く感じていない、理解していないと述べた。

2017年までに厚木基地から原子力空母の艦載機が来て所属機が増え、オスプレイの訓練拠点化する岩国、私たちは基地の集中する沖縄と、新たに近畿地方の米軍基地建設が始まってしまった京都としっかりと連携して基地の拡充・強化に反対していかなければならないと決意を新たにされた。

命が捨てられる！ iv

地方独立行政法人認可取消等請求事件

福崎裕夫（地域医療を守る会会員）

判決が言い渡される

府中市による府中北市民病院の強引な縮小に対して地域住民が独法化等の取消を求めて約2年にわたって、12回に及ぶ公判の判決が出た。この間、バスで駆けつけた住民で地裁最大の60席の傍聴席は毎回溢れた。「マムシに噛まれたが、常勤外科医のいなくなった北市民病院では、診察してもらえなかった」などの被害事例は約200例提出された。これに対し、府中市と広島県は何も答えなかった。そして、地裁は住民が困っている実体をほぼ認めておきながら、なにも判断せず、原告を敗訴させる『棄却』ではなく、「裁判の対象にならない」と『却下』した。

続けられる強引な縮小

この裁判の間にも北市民病院の縮小は強行され、外科手術はできなくなり、病床数はさらに減らされ、療養病床はなくなった。当初、府中市は北市民病院を療養型の病院にすると計画していたにもかかわらず、である。「縮小ありき」の市政が明確に見て取れる。病床数が減れば、新たな患者を受け入れるためにも、早めに退院していただくざるをえなくなり、そのため入院日数が短くなると、準備などの仕事量が増え、看護師は過重労働となる。もともと確保困難な看護師が、独法化により、公務員でなくなり、看護師は不足する。ところが、府中市は病院縮小の理由に看護師不足をあげている。提訴直前には出産などで不足することが明らかで、住民の要望があるにもかかわらず、府中市はあえて看護師を募集しなかった。こうした事実を踏まえれば、府中市が看護師不足のために縮小したのではなく、病院を縮小するために、看護師を減らしたことは明らかだ。

府中市民化の兆し

今年4月の市長選挙で北市民病院を強引に縮小してきた伊藤市長が戸成候補に敗れた。直接の敗因はダイエツプランを出すなど府中市は財政難であるにもかかわらず、自らの市長報酬を上げたことに対し、市長報酬を減らし、対話を重視するという対立候補の出現である。多くの上下町住民が戸成候補の告示直前の出馬表明を歓迎した。約4千票の差を上下町の住民が左右した可能性は高い。

戸成市長にはすでに地域医療守る会の申し入れにも市長室で応じた。以前は市役所総務課前の通路にパイプ椅子をおき、医療政策課ではなく、総務課職員が無関心に聞いただけだった。ただし、申し入れが受け入れられたわけでもなく、具体的に両者の調整の議論ができていないわけでもない、まだまだこれからである。

また、選挙後にも北市民病院の縮小が行われたが、伊藤前市長時代の計画がそのまま実行されたのだろう。12年間の伊藤市政により洗脳された職員は多く、そしてより多く管理職に残っている。また、伊藤前市長支持だけで、明確な政策もない平成クラブは議会の圧倒的多数を占めている。「対話」の市長の出現だけでは、姿勢は簡単には変わらない。

判決は司法の否定

今回の判決は住民が困っている実体を認めておきながら、その内容を判断せず、地域で唯一の中核病院が縮小されても、地域住民である原告が必ずとも特定されているとはいえ、条例制定の取消は行政処分であり、裁判の対象にならないと、窓口で切り捨てた。窓口で切り捨てるなら、なぜ最初に切り捨てなかったのか。何か変だ。

当事者が対立事項を話し合いで、公正に解決できれば、それに越したことはない。だが、往々にして暴力の応酬となる。そんなことを防ぐため、そして権力者の横暴を防ぐためにこそ、司法が存在していると思う。決して権力や行政に媚びるために、司法やマスコミがあるのではないはずだ。ここで裁判をやめれば、この裁判で司法が正しい姿勢を示すチャンスをつぶすことになる。司法に再生のチャンスを与えよう。日本国憲法を無視して、集団的自衛権の行使が閣議決定されたが、今こそ法は誰のため、何のためにあるのかを、問い直すときである。

闘いは続く

裁判所の不当判決に対して、60人の原告が控訴を決めた。新市長の対話の姿勢に呼応して、控訴はやめようという意見もあった。市長の「対話」重視の姿勢には期待しているが、それだけで、北市民病院を守るわけではない。「地域医療を守るための具体的対策に踏み込んだ協議が達成されれば、裁判を取り下げる準備があること」を表明しながら、裁判を継続するのが良策だと思う。

将来団塊世代の高齢化により、全国で病床や福祉施設が非常に不足することが予測されている。健康な地域づくりに住民自ら取り組んでいきたい。それが自治だ。大戦中は町内会が戦争を推進する権力の下部機関となっていた。自治的な地域をつくることも平和のためにかかせない。



広島豪雨土砂災害を考える

二見伸吾（広島県9条の会ネットワーク事務局）

● 豪雨による甚大な被害

8月20日未明、広島市内を襲った記録的な豪雨。豪雨による土砂災害では過去最大規模の甚大な被害をもたらしました。9月2日現在、死者72人、行方不明が2人。避難所での生活を余儀なくされている人は、413世帯、881人です。

8月27日、安佐南区八木8丁目に支援に入りました。大きな石が上流から流れてきており、いかに水の勢いがすごかったのかが分かります。家の中に入り込んだ土砂は、1メートル以上の高さ。かんたんに天井に手が届きました。このうずたかく積もった土と岩をかき出して、バケツリレーで離れたところに移す。これが私たちの仕事です。

家の外側は電線に頭がぶつかりそうなくらい土砂が堆積。この土砂を取り除くのは重機でなければ無理でしょう。みんなで力をあわせて奮闘しましたが、泥の排出は遅々として進みません。

● 天災であるとともに人災

このような災害がなぜ起きたのでしょうか。天災（自然災害）であることは当然ですが、人災（社会災害）でもあると思うのです。4点ほど指摘したい。

第一に、無計画な開発です。宅地開発は民間業者まかせで、規制らしい規制がほとんどない。だから、本来、建ててはいけないようなところに家が建っている。広島にかぎりませんが、乱開発によって、山の斜面にはいつくばるように家が建ち、団地になっています。集中的な豪雨が降ればどこが崩れてもおかしくないのです。

第二に、広島県の砂防予算です。1994年からほぼ170億円の砂防予算がついていました。99年に大雨による土砂崩れがあり、この年は330億円の予算がつかしました。2000年は200億円で、そこから右肩下がり減少。2012年には80億円まで減ってしまいました。その一方で高速道路をつくる予算は11年から14年で1650億円。一年あたり410億円です。山を削り、海を埋め、高速道路をはりめぐらすためにお金をつぎ込む。県民の安全のための予算はけちる。こういう国政や県政、市政のあり方が被害を甚大にしたといえるでしょう。

● 自然破壊が背景に

第三に、人工林の荒れです。日本の国土の7割近くが森林で、世界有数の森林国です。人工林が4割を占めていますが、木材消費量の8割弱が輸入材。日本は林業を保護・育成してきませんでしたので、人工林は荒れ放題。国土保全機能は著しく低下しています。

家とともに押し流されたひな人形



第四に、今回のようなゲリラ豪雨が頻発する背景に地球温暖化がある、ということです。

温暖化を引き起こしているのは温室効果ガス。日本は世界第5位の排出国です。2009年に「2020年までに温室効果ガスの排出量を1990年比で25%削減する」と国際公約したものの、福島原発の事故を口実にこの目標を撤回してしまいました。火力発電が温室効果ガスのほとんどを占めているからです。バイオマスや地熱、小水力など再生可能エネルギーへの転換を図ってこなかったことに問題があります。

● 生活再建支援を早く

阪神淡路大震災（1995年）、東日本大震災（2011年）、その後も全国各地で自然災害が起きています。それなのにどうして、こうも対応は後手後手なのでしょう。日本にも「災害救助法」があり、避難所、炊き出し、物資提供、仮設住宅、障害物除去、遺体の埋葬について規定します。条文が33しかない簡素な法律なのは、あまり細かいことは決めずに機動的・弾力的な運用をするためでしたが、実際にはその運用が硬直的で、生活再建の障害になっています。

アメリカ合州国にはスタフォード法という災害対策法があり、生活助成、住宅の確保、がれきの撤去などが迅速におこなわれます。医療・食料・消耗品の供給、仮設住宅の提供、家賃補助、住居補助補修費の支給、個人の建物補修に最高20万ドル、家財の補填のために最高4万ドルの低利融資、最高22500ドルの個人・家族援助金……。どのくらい物が買えるのかということを加味すれば300万円から400万円ぐらいをポンとくれるのです。それだけあれば当面の暮らしには困りません。アメリカのことをすぐまねたがる日本政府ですが、この法律だけは全然まねようとしません。

安倍首相は、集団的自衛権を閣議決定した7月1日の記者会見でわずか10分のあいだに「国民を守る」と7回も言いました。今回の災害を知っても、2時間もゴルフを続けた安倍首相。国民の命など眼中にないという本性がくっきり。誰かが「政治家は何を言っているかではなく、何をするかで判断すべし」と言っていますが、まさにその通りですね。



日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワーク

毎月第1水曜日に街頭行動を行っています！。

10月1日(水) 12:00~13:00 メルパルク前

11月5日(水) 12:00~13:00 メルパルク前

12月3日(水) 12:00~13:00 メルパルク前

主催：日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワーク

連絡先：090-3632-1410(土井)

上関原発止めよう!広島ネットワーク中電本社前行動

9月17日(水) 11:55~13:00 中国電力本店前

10月15日(水) 11:55~13:00 中国電力本店前

第2 or 第3水曜日

連絡：090-6835-8391(渡田)

■上関裁判

免許取消訴訟：9月10日 山口地裁

自然権訴訟：10月14日 山口地裁

損害賠償(スラップ)訴訟：10月22日

活動報告 (第九条の会ヒロシマほかネットワークなど関連団体行事含む)

- 6月12日(木) 第九条の会ヒロシマ会報82号発送 広島市民交流プラザ3F会議室B
- 15日(日) 集団的自衛権行使シール投票 本通り電停前 第九条の会ヒロシマ
- 17日(火) 集団的自衛権行使シール投票 本通り電停前 第九条の会ヒロシマ
- 18日(水) 集団的自衛権反対街宣 本通り電停前 秘密保護法廃止広島ネット
- 20日(金) 戦争する国NO 集会&デモ 18:00 原爆ドーム前 18:30~ デモ
九条の会・三原 集団的自衛権行使容認閣議決定 緊急行動 三原駅前
- 21日(土) 広島マスコミ九条の会 総会& 記念講演会 山田健太さん(広島市民交流プラザ)
集団的自衛権行使容認 河上暁弘講演とパレード 九条の会. 広島県北ほか
- 25日(水) 広島県9条の会ネットワーク+秘密保護法廃止ネット合同例会
- 26日(木) 中国電力株主総会 上関原発建設反対中電前行動
- 29日(日) 自衛隊の現状を考える 新倉裕史講演会 ピースリンク ビューポートくれ
- 30日(月) 第九条の会ヒロシマ世話人会③ 11:30~ 国際会議場3F研 &ヘルプハガキ発送
- 7月1日(火) 自衛隊60年集団的自衛権行使容認抗議平和船団 ピースリンク広島・呉・岩国
集団的自衛権行使容認反対街宣(広島県9条の会ネット+秘密保護法廃止ネット)
戦争させない1000人委員会原爆ドーム前集会とデモ
- 2日(水) 日本軍「慰安婦」広島ネット水曜日街宣 メルパルク前12時~13時
集団的自衛権行使容認抗議街宣(広島県9条の会ネット+秘密保護法廃止ネット)
- 3日(木) 集団的自衛権行使容認抗議街宣(広島県9条の会ネット+秘密保護法廃止ネット)
- 4日(金) 集団的自衛権行使容認抗議原爆ドーム前集会とデモ(広島弁護士会主催)
- 7日(月) 第九条の会ヒロシマ世話人会④ 12:00~ 国際会議場3F研
- 15日(火) 第九条の会ヒロシマ世話人会⑤ 12:00~ 国際会議場3F研
- 20日(日) 島根原発再稼働反対大集会 国引メッセ 4000人
- 22日(火) 第九条の会ヒロシマ世話人会⑥ 名簿整理~23日⑦
- 26日(土) 8・6新聞意見広告名簿校正 国際会議場1Fラウンジ⑧
- 28日(月) 8・6新聞意見広告名簿校正 国際会議場1Fラウンジ⑧
8・6新聞意見広告英語バージョン確認
- 31日(木) 8・6新聞意見広告15段原稿入稿
- 8月1日(金) 8・6新聞意見広告5段原稿入稿
- 2日(土) 日本軍「慰安婦」広島ネット水曜日街宣
- 5日(火) 8・6ヒロシマ平和へのつどい 広島市民交流プラザ
- 6日(水) 7:00~ 「8.6新聞意見広告配布行動(原爆ドーム前)
7:45~ グラウンド・ゼロのつどい(原爆ドーム前)
8:15~ 追悼のダイ・イン(原爆ドーム前)
8:45~ 「原発も核兵器もない世界を」デモ(原爆ドーム前~中電本社)
9:30~ 中国電力本社前・脱原発座り込み行動
15:00~ 8.6ヒロシマ国際対話集会 反核のタベ 広島市民交流プラザ
- 8日(金) 8・6新聞意見広告カラーコピー発送 13:00~ 国際会議場3F研
- 9日(土) 秘密保護法パブコメ学習会 石口俊一さん、沢田正さん 国際会議場3F研
- 12日(火) 第九条の会ヒロシマ世話人会⑩ 国際会議場3F研
- 14日(木) 日本軍「慰安婦」メモリアル・デーを国連記念日に! 12:00~ 原爆ドーム前
- 20日(水) 上関原発止めよう!広島ネットワーク中電本店前行動 12:00~
- 24日(日) 「終わらない戦争」上映会 14:00~ 広島中央公民館 日本軍「慰安婦」ネット広島
- 27日(水) 広島県9条の会ネット+秘密保護法廃止ネット合同例会 国際会議場3F研
- 30日(土) 広島県9条の会ネット&秘密保護法廃止ネット合同今秋の取り組みについて相談会
- 9月2日(火) JCI広島不戦のつどい「慰安婦」問題とNHK 池田恵理子さん 広島市民交流プラザ
- 3日(水) 日本軍「慰安婦」広島ネット水曜日街宣 本通電停前 12時~13時
- 7日(日) 集団的自衛権行使と新ガイドライン 湯浅一郎講演会 広島市民センター ピースリンク
- 9日(火) 8・6新聞意見広告からコピーA配布(女性9条の会9の日行動に合流)
- 11日(木) 第九条の会ヒロシマ会報83号発送 13:00~ 広島市民交流プラザ3F



7.1 集団的自衛権行使容認抗議平和船団



7.4 集団的自衛権行使容認抗議原爆ドーム前集会



7.4 集団的自衛権行使容認抗議原爆ドーム前集会とデモ



8.6 原発も核兵器もない世界をデモ



8.6 中国電力本店前座り込み

お知らせ

- ◆2015年中学校教科書採択に向けて
民主主義から国家主義の教育へ 小学校教科書はこう変わった
9月21日(日) 13:30~16:30 資料代:1000円
日本基督教団主城教会(広島市東区若草町6-7)
講師:伊賀正浩さん(子供たちに渡すな!あぶない教科書・大阪の会)
主催:教科書採択問題広島ネットワークほか
連絡先:0829-31-0876(柴田)

- ◆九条の会・はつかいち 2014 総会 記念講演会
—教育から憲法を考える—
10月5日(日) 14:00-16:30(総会 13:30 から)
廿日市商工保健会館交流プラザホール1F
講師:松田正久さん(前 愛知教育大学学長)
資料代:800円 託児、手話通訳を用意します。要問い合わせ。
主催:九条の会・はつかいち
連絡先:090-3373-5083(新田)

- ◆呉九条の会連絡センター 第9回音楽と講演のつどい
10月5日(日) 午後2時~4時 ビューポートくれ大ホール
講師:アーサー・ピナードさん(詩人)
主催:呉九条の会連絡センター
連絡先:0823-73-0432(伊藤)

- ◆子どもの本・九条の会広島 5周年の集い
10月12日(日) 13:30~ 中国新聞ホール
講師:森村誠一さん、アーサー・ピナードさん
主催:子どもの本九条の会広島
連絡先:080-0641-1038(三浦)

- ◆「西松安野友好基金和解事業報告書」出版記念パーティー
10月18日(土) 17:00~20:00 参加費:5000円
ホテルサンルート広島

- ◆中国人受難者を追悼し平和と友好を祈念する集い
10月19日(日) 13:30~14:15(受付:13:00~)
「安野中国人受難の碑」前
広島県山県郡安芸太田町坪野 中国電力安野発電所
集い終了後、善福寺で追悼法要
バス:11:40 ホテルサンルート広島→12:00 広島駅北口
帰りは広島駅経由ホテル、バス代は無料です。
主催:西松安野友好基金運営委員会
連絡先・申し込み:082-293-2774(川原)
*出版記念パーティとバス乗車は要申込。締切り9月25日

- ◆安倍政権と日本軍「慰安婦」問題~真の解決とは何か~(仮称)
10月25日(土)14:00~16:30 日本基督教団主城教会(若草町)
講師:田中利幸(広島市立大学広島平和研究所教授)
参加費:500円(学生無料)
主催:日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワーク
連絡先:090-3632-1410(土井)

- ◆女性9条の会・広島8周年記念のつどい
11月15日(土) 13:00~ ゆいぽーと
講師:秋田智佳子弁護士
連絡先:082-243-1565(女性9条の会・ひろしま)

- ◆ニュークスアジアフォーラム in 台湾 報告
11月24日(日) 14:00~16:00 ゆいぽーと
講師:渡田正弘さん
主催グローバルセッションを問う広島ネットワーク

広島県北

- ◆高暮平和の集い
ダム建設に伴う朝鮮人犠牲者、高暮地区の戦争犠牲者の追悼
9月14日(日) 10:00~ 高暮ダム堰堤(庄原市高野町高暮)
主催:高暮平和の集い実行委員会 交流会あり
連絡先:ふるさと村高暮(0824-86-2405) 草谷末廣

- ◆沖縄を犠牲にしたままで、日本は“平和”ですか 第2弾
10月1日(水) 18:00~ デモ or 街宣 19:00~ 講演会
十日市きんさいセンター 参加費:1,000円
講師:元読谷村議 知花昌一さん
共催:9条の会広島県北、県北退教「九条の会」、寺戸九条の会
連絡先:080-5233-3429(平和を考える市民の会 小武)

- ◆2014ピースフェスタ三次~ほしはら山のがっこうから未来をつむぐ
10月18日(土) 10:45~16:15 ほしはら山のがっこう
参加費:無料 (〒728-0624 広島県三次市上田町388)
11:10~座談会 湯浅正恵さん 三浦綾さん 花本識史さん
13:30~「ガザと私たち」湯浅正恵(広島市立大学教授)
15:00~「ビルマ難民キャンプからの報告」小武正教(西善寺住職)
14:40~「ヨガにおける平和とは?」渡部夏(YOGASAMGHA代表)
主催:ピースフェスタ三次実行委員会
連絡先:080-5235-7756(塚本)・080-2020-4779(福元)

広島県東部

- ◆第8回さよなら原発歌声パレードINおのみち(川内原発再稼働阻止)
9月27日(土) 13時30分~ JR尾道駅前芝生広場
主催:フクシマから考える一歩の会(尾道) 原発のーてもえーじや
ないBINGO(福山) 命と未来を考える会・三原
連絡先:0848-66-3592(坂本)

- ◆中国電力による4800万円損害賠償裁判(スラップ裁判)
10月22日(水) 11時から 山口地方裁判所
尾道出発の大型バスでの傍聴行動
連絡先:090-2002-8667(小林)

- ◆命こそ宝 戦争と人生を語る 石川文洋講演会
10月5日(日) 13:30~ 福山市民参画センター5F
講師:石川文洋さん(報道写真家) 資料代:1000円
主催:STOP! 秘密保護法福山緊急行動
連絡:084-926-5441 FAX:084-924-4435(市民運動交流センター)

- ◆「いのちを奪う原発」講演会
—子どもたちの健康被害と保養(仮題)—
11月9日(日) 13時30分~ 尾道市公会堂別館
講師:長田浩昭さん(兵庫県・法徳寺住職、「原子力行政を問
い直す宗教者の会」事務局)
主催:フクシマから考える一歩の会 資料代:500円
連絡先:090-2002-8667(小林)

- ◆九条の会・三原発足8周年記念講演会
「集団的自衛権行使容認でどう変わる?私たちの社会」(仮)
11月16日(日) 13:30~15:30 三原市市民福祉会館5階
講師:河上暁弘(広島市立大 広島平和研究所准教授)
主催:九条の会・三原 資料代:500円
連絡先 0848-62-5929(日本基督教団三原教会)
*講演会終了後パレードも予定されています。

事務局から

2014年会費をお忘れなく! よろしくお願ひ致します(。)

- 2014年8・6新聞意見広告を掲載することができました。皆さまのご協力がなければできなかったことです。賛同して下さった皆さまに、心から感謝しています。
- 2014年の会費をもしお忘れになっていたら、よろしくお願ひ致します。会費納入についてはタックシールに記載しています。入れ違いの場合は申し訳ありません。ご確認の上、記載の間違ひがありましたら遠慮なくご連絡ください。よろしくお願ひ致します。

後記

- 広島市北西部の豪雨土砂災害を心配して声をかけて下さった皆さん、ありがとうございます。8.23集会も豪雨土砂災害被害者への黙とうから。全国あちこちで災害があり心が痛みます。フクシマも忘れない。西
- 会員さんのお誘い「ゆず」公演で8・6意見広告チラシを配布した。ゆずファンって平和な人が多いのかしら。楽しかった。お誘ひありがとう D
- 8.6新聞意見広告も予想内の赤字でよかった。読売の東京都内版掲載はヒヤヒヤしたけど政治屋たちもよく読むから、まっいいか 佐
- 改造内閣閣僚、Hさんによると20人中、何らかの右翼団体に属してないのは1人だけ。議論しても負けるので臆病なAさんは今の座にしがみつ
- き、やれることをやるつもり? 世論を見よ! そうはさせるもんか。フ